

大阪教育大学卒業生・修了生アンケート

－ 報告書 －

2006年6月

大阪教育大学

## 目 次

調査概要	1
回答者情報	2
<b>【選択項目】</b>	
共通設問	6
大阪教育大学に対する現在のイメージ	
大阪教育大学の学生支援体制について	
リカレント教育・リフレッシュ教育のニーズについて	
学部	13
学部教育の内容・方法等について	
第二部について	
大学院	20
大学院における教育研究活動等について	
大学院におけるリカレント・リフレッシュ教育について	
夜間大学院の開講形態について	
専攻科	27
専攻科における教育研究活動について	
専攻科におけるリカレント・リフレッシュ教育について	
<b>【記述項目】</b>	
学部	31
印象に残った授業と教育課程区分とその理由	
大阪教育大学に関する御意見	
大学院	82
大学院で印象に残った授業とその理由	
大学院の研究指導の中で最も印象に残ったことがらとその理由	
大阪教育大学に関する御意見	
専攻科	97
専攻科で印象に残った授業とその理由	
専攻科の研究指導の中で最も印象に残ったことがらとその理由	
大阪教育大学に関する御意見	

【調査概要】

■調査目的：本学の学部・大学院・専攻科を卒業・修了後、2年・3年・5年・10年・20年を経過した方に対するアンケート調査を実施することにより、卒業・修了生の多様な社会経験を通じた大学の教育を中心とする評価を求めるとともに、大学カリキュラムの変遷に応じた評価を参考とすることにより、教育研究組織及び教育課程・教育内容等について、自己点検・評価の素材とすることを通じて、改善に役立てるため。

■調査対象：1985年次、1996年次、2001年次、2003年次、2004年次卒業生

■調査方法：①同窓会の協力を得て、調査対象者宛にアンケート用紙を送付  
②調査対象者から記入済みアンケート用紙を返送

■調査期間：2006年4月6日～4月30日

■選択項目サンプル数：615件（603名）

（うち  
学部・大学院同一回答者 11名  
学部・専攻科同一回答者 1名）

[項目別回答数]  
共通設問 603件  
学部 507件  
大学院 97件  
専攻科 11件

①発送数 5,254  
②返送数 649  
③未記入等による不明 46

※なお、記述項目については選択項目で未記入等による不明としたデータも含め全て記載している。

[年度・所属別回答数]

		大学院	夜間大学院	教員養成課程	教養学科	第二部	専攻科生	回答者数
2004年	卒業生	162	48	475	396	87	13	147
	回答者	19	12	60	43	9	4	
	回答率	11.7%	25.0%	12.6%	10.9%	10.3%	30.8%	
2003年	卒業生	144	60	568	385	86	13	113
	回答者	14	9	56	28	4	2	
	回答率	9.7%	15.0%	9.9%	7.3%	4.7%	15.4%	
2001年	卒業生	126	46	469	329	73	11	111
	回答者	13	9	41	41	5	2	
	回答率	10.3%	19.6%	8.7%	12.5%	6.8%	18.2%	
1996年	卒業生	100	16	459	278	59	16	121
	回答者	15	1	54	41	8	2	
	回答率	15.0%	6.3%	11.8%	14.7%	13.6%	12.5%	
1985年	卒業生	41	—	716	—	62	16	123
	回答者	5	—	107	—	10	1	
	回答率	12.2%	—	14.9%	—	16.1%	6.3%	
回答者数		66	31	318	153	36	11	615

[備考]

- ・夜間大学院及び教養学科に1985年の卒業生は存在しません（教養学科1988年、夜間大学院（健康科学専攻）1993年、夜間大学院（実践学校教育専攻）1996年設置）。
- ・回答者が複数の学歴をお持ちの場合には、複数集計している。

【回答者情報】

- ◆ 問1 統計処理上、必要となるあなたのことについてお聞きします。該当する番号を口記入して下さい。

問1－（1）年齢は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
20代	0	0	83	87	107	277
30代	0	100	3	1	5	109
40代	116	2	0	0	0	118
50代	1	1	1	0	0	3
不明	6	18	24	17	31	96
合計	123	121	111	105	143	603

問1－（2）本学を修了されたのはいつですか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
学部	117	103	87	88	112	507
大学院	5	16	22	23	31	97
専攻科	1	2	2	2	4	11
合計	123	121	111	113	147	615

問1－（3）性別はいずれですか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
男	45	33	30	27	48	183
女	78	88	81	78	95	420
合計	123	121	111	105	143	603

問1－（4）現在、あなたはどの職業に従事されていますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
学校教員	75	45	48	62	85	315
公務員（学校教員を除く。）	12	12	12	6	10	52
会社員・団体職員（役員含む。）	12	23	24	13	24	96
学習塾講師又は経営	4	3	3	4	2	16
自営業	2	2	3	2	0	9
学生	0	1	6	2	5	14
無職	9	23	9	8	8	57
その他	9	10	5	7	8	39
不明	0	2	1	1	1	5
合計	123	121	111	105	143	603

問1－（5）問1－（4）で学校教員と答えた方にお聞きします。

問1－（5）－1）校種は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
小学校	25	18	26	35	50	154
中学校	28	7	4	9	8	56
高等学校	12	7	7	4	14	44
中等教育学校	0	1	0	0	0	1
盲・聾・養護学校	5	5	3	5	5	23
幼稚園	0	2	3	3	3	11
大学・短期大学	4	3	2	5	2	16
高等専門学校	0	0	0	0	0	0
専修学校	1	0	2	0	0	3
各種学校	0	0	0	0	0	0
不明	0	2	1	1	3	7
合計	75	45	48	62	85	315

【回答者情報】

問1-(5)-2) 現在の役職は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
校長	0	0	1	2	0	3
教頭	1	0	0	0	0	1
教諭	61	37	32	43	53	226
養護教諭	3	2	8	3	4	20
助教諭	0	0	0	0	0	0
養護助教諭	0	0	0	0	0	0
講師	3	2	5	10	23	43
大学・短期大学教員	3	3	1	4	1	12
高等専門学校の校長・教員	0	0	0	0	0	0
専修学校・各種学校の校長・教員	1	0	1	0	0	2
その他	3	1	0	0	2	6
不明	0	0	0	0	2	2
合計	75	45	48	62	85	315

問1-(5)-3) 勤務地は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
大阪府内	52	19	29	40	56	196
滋賀県内	0	2	2	1	1	6
京都府内	3	2	0	0	1	6
兵庫県内	9	11	8	8	9	45
奈良県内	2	4	3	8	11	28
和歌山県内	0	0	1	1	1	3
その他	9	7	4	4	5	29
不明	0	0	1	0	1	2
合計	75	45	48	62	85	315

問1-(6) 問1-(4)で公務員(学校教員を除く)又は会社員・団体職員(役員含む)と答えた方にお聞きします。

問1-(6)-1) 現在、従事されている部門は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
総務部門	7	10	8	8	5	38
企画部門	3	4	3	2	2	14
研修部門	1	1	0	0	4	6
研究・開発部門	1	4	8	3	5	21
営業部門	2	4	4	3	5	18
その他	9	12	13	3	12	49
不明	1	0	0	0	1	2
合計	24	35	36	19	34	148

問1-(6)-2) 現在の職位は次のどれに該当しますか。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
一般社員・一般職員	10	25	30	16	28	109
係長相当以上	6	4	0	2	1	13
課長相当以上の管理職	4	1	1	0	1	7
会社役員・団体役員	2	0	0	0	0	2
派遣社員	0	2	2	1	1	6
パート・アルバイト	2	2	0	0	1	5
その他	0	1	3	0	1	5
不明	0	0	0	0	1	1
合計	24	35	36	19	34	148

【回答者情報】

問1－（7）最終学歴についてお聞きします。

	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
本学の教育学部	98	76	67	72	88	401
本学の大学院	10	26	21	19	36	112
本学の専攻科	2	2	3	1	7	15
本学以外の大学・学部	1	3	4	2	0	10
本学以外の大学院	3	9	9	7	6	34
本学以外の専攻科	0	0	1	0	1	2
不明	9	5	6	4	5	29
合計	123	121	111	105	143	603

問1－（8）在学時の所属についてお聞きします。

[学部]

		1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
教員養成課程	第一部小学校教員養成課程	69	29	19	38	37	192
	第二部小学校教員養成課程	10	8	5	4	9	36
	中学校教員養成課程	15	11	7	10	9	52
	障害児教育教員養成課程	3	9	4	3	7	26
	幼稚園教員養成課程	4	3	4	1	3	15
	養護教諭養成課程	4	2	5	4	3	18
	特別教科（数学）教員養成課程	2	0	0	0	0	2
	特別教科（理科）教員養成課程	4	0	1	0	0	5
	特別教科（音楽）教員養成課程	3	0	0	0	1	4
	肢体不自由児教育教員養成課程	1	0	1	0	0	2
	言語障害児教育教員養成課程	1	0	0	0	0	1
	病虚弱児教育教員養成課程	1	0	0	0	0	1
教養学科	人間科学専攻	0	5	6	2	6	19
	文化研究専攻	0	4	4	4	7	19
	数理科学専攻	0	4	3	2	4	13
	自然研究専攻	0	8	6	5	8	27
	情報科学専攻	0	5	3	1	3	12
	スポーツ・健康科学・生活環境専攻	0	8	10	8	7	33
	芸術専攻	0	7	9	6	8	30
合計	117	103	87	88	112	507	

【回答者情報】

[大学院]

		1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
教育系	学校教育専攻	2	2	0	3	4	11
	障害児教育専攻	0	2	0	1	2	5
	国語教育専攻	0	2	0	0	0	2
	英語教育専攻	0	0	0	0	0	0
	社会科教育専攻	0	1	2	2	1	6
	数学教育専攻	0	0	2	1	0	3
	理科教育専攻	0	2	1	3	3	9
	家政科教育専攻	1	0	2	0	1	4
	技術教育専攻	0	0	0	0	1	1
	音楽教育専攻	0	2	3	0	2	7
	美術教育専攻	1	0	1	1	1	4
	保健体育専攻	1	1	1	1	0	4
	養護教育専攻	0	0	0	0	1	1
	実践学校教育専攻	0	0	4	2	8	14
教養系	国際文化専攻	0	1	0	0	0	1
	総合基礎科学専攻	0	2	0	1	1	4
	芸術文化専攻	0	0	1	1	2	4
	健康科学専攻	0	1	5	7	4	17
合計		5	16	22	23	31	97

[専攻科]

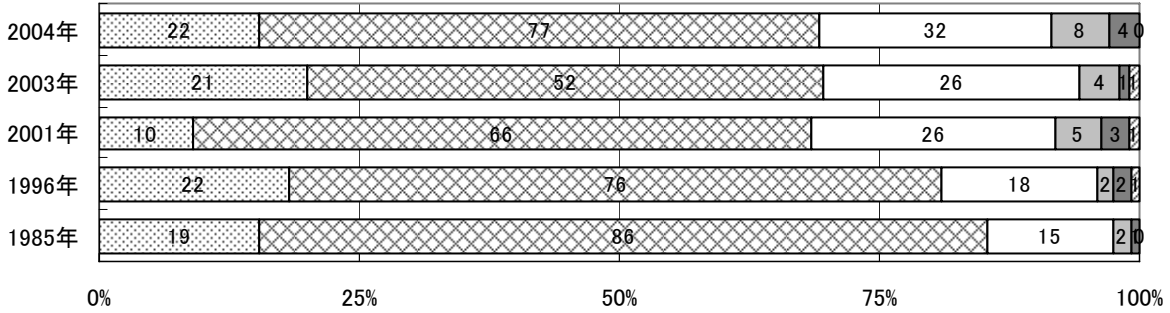
	1985年	1996年	2001年	2003年	2004年	合計
特殊教育特別専攻科						
言語障害教育専攻	1	2	2	2	4	11

【共通設問】

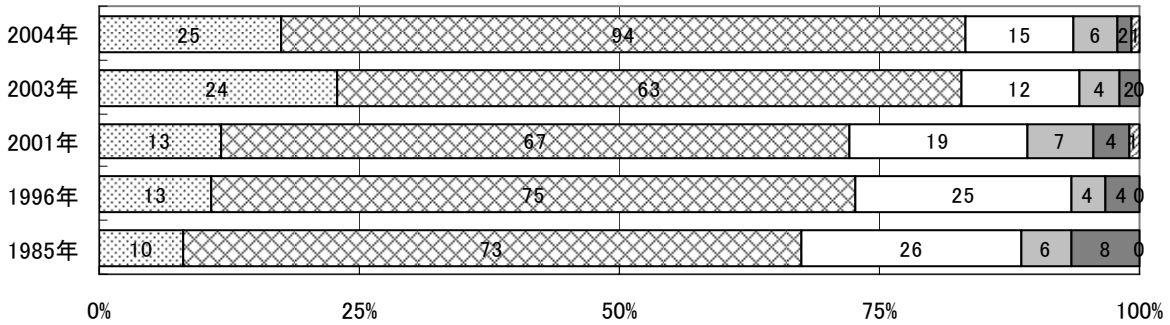
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

◆ 問2 大阪教育大学に対する現在のあなたのイメージについてお聞きします。

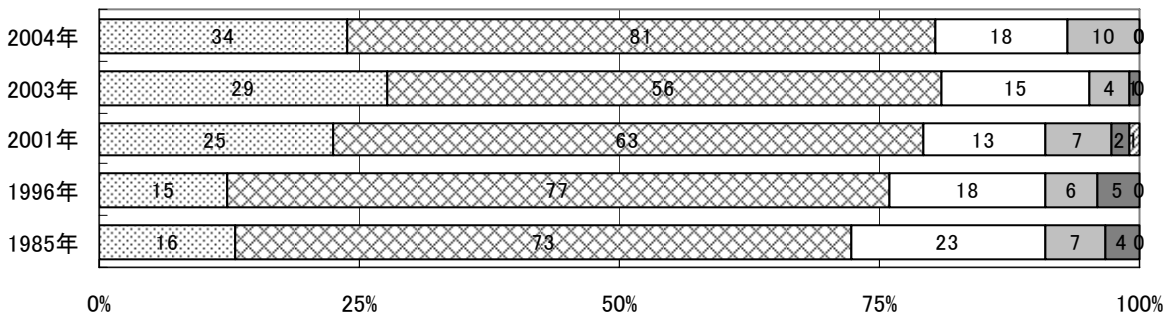
問2－(1) 歴史・伝統がある。



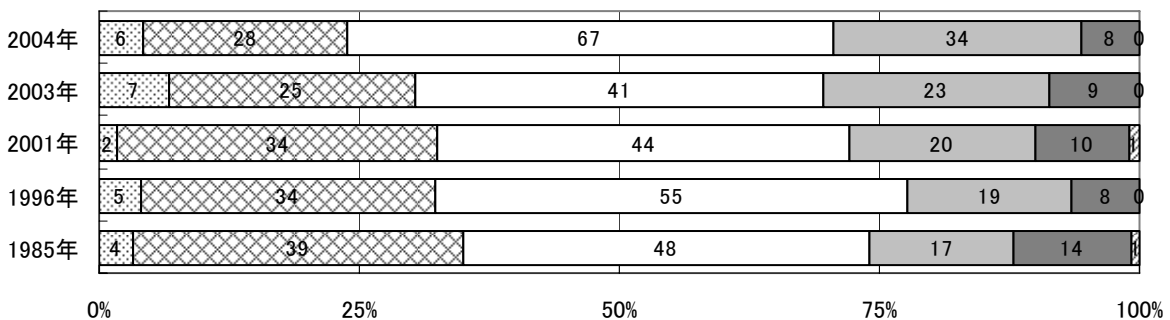
問2－(2) 校風・雰囲気が良い。



問2－(3) 親しみやすい大学である。



問2－(4) 理念が明確で学内に浸透している。

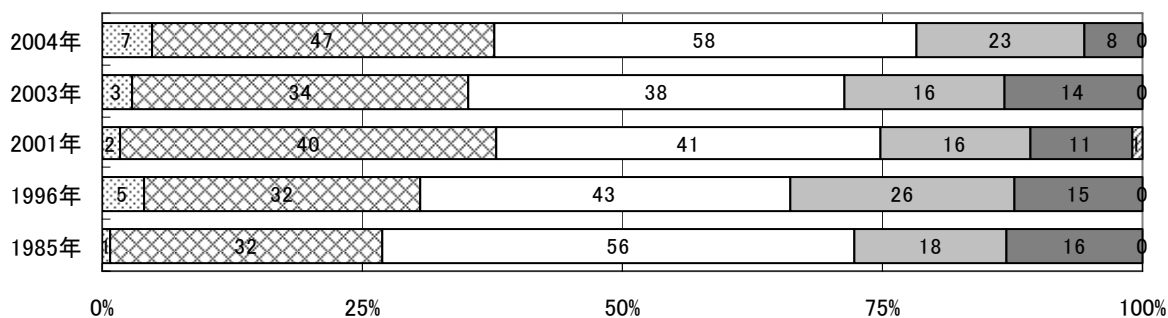




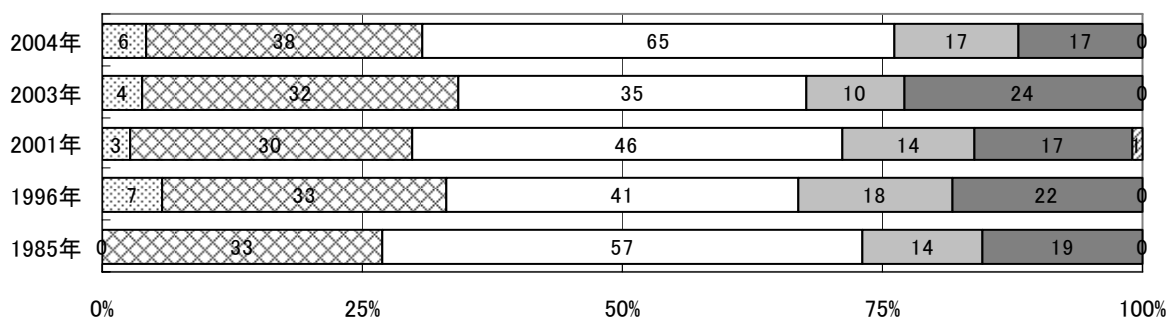
【共通設問】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

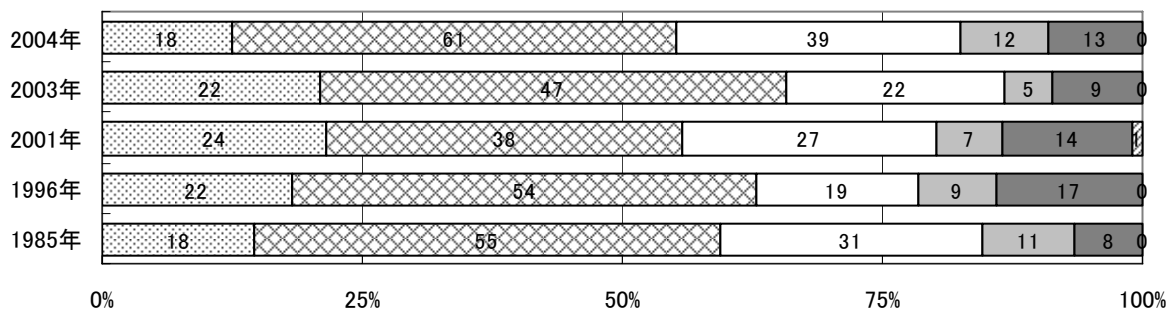
問 2 - (5) 著名な教授陣が多い。



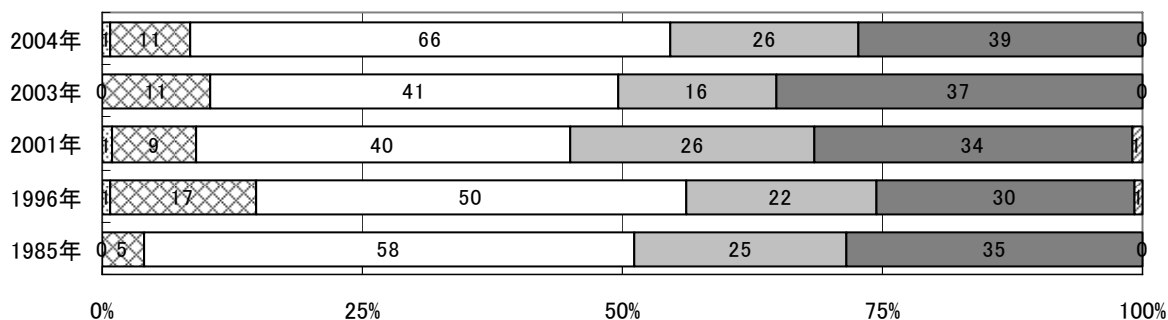
問 2 - (6) 研究実績が豊富である。



問 2 - (7) 教育現場との連携実績が豊富である。



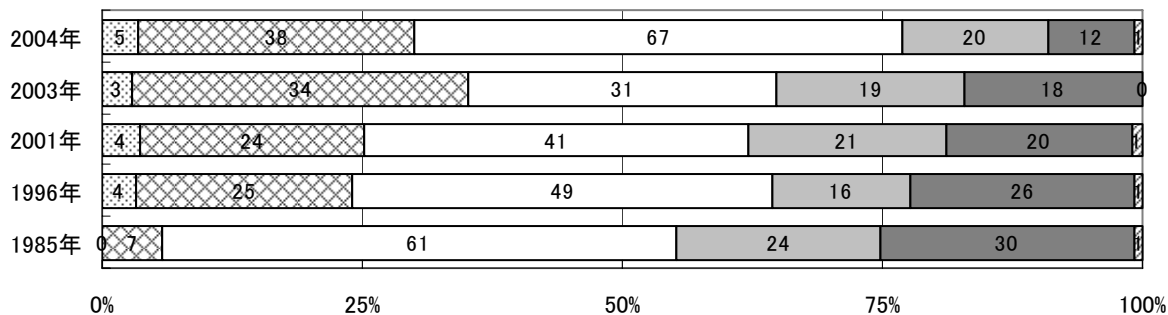
問 2 - (8) 産学協同研究の実績が豊富である。



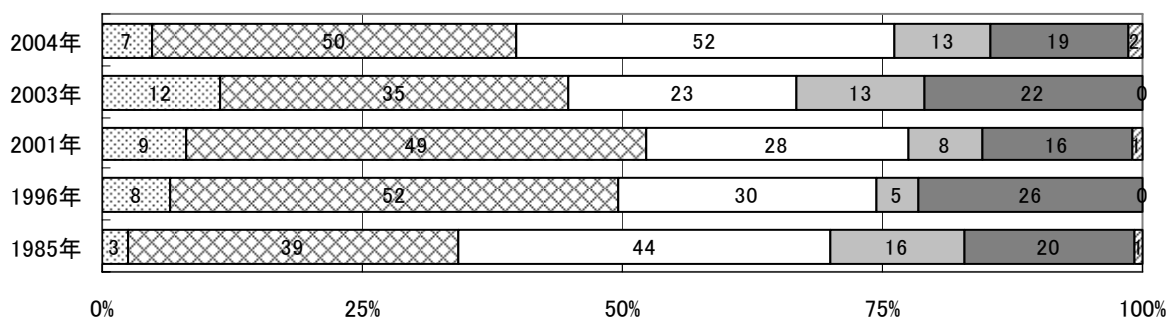
【共通設問】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

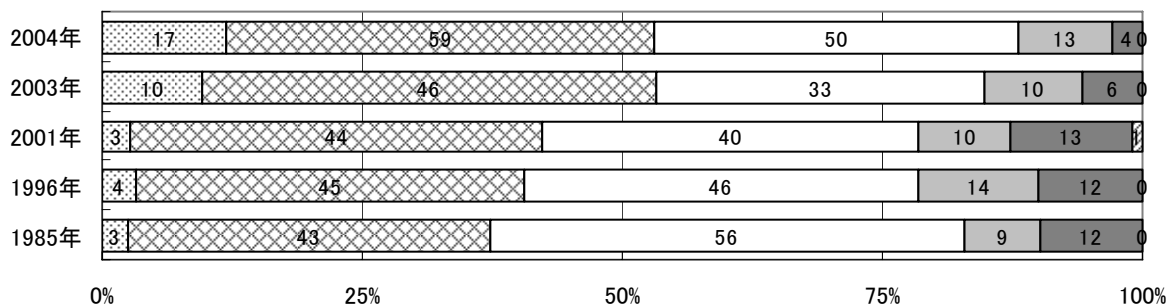
問 2 - ( 9 ) 国際的な交流が活発である。



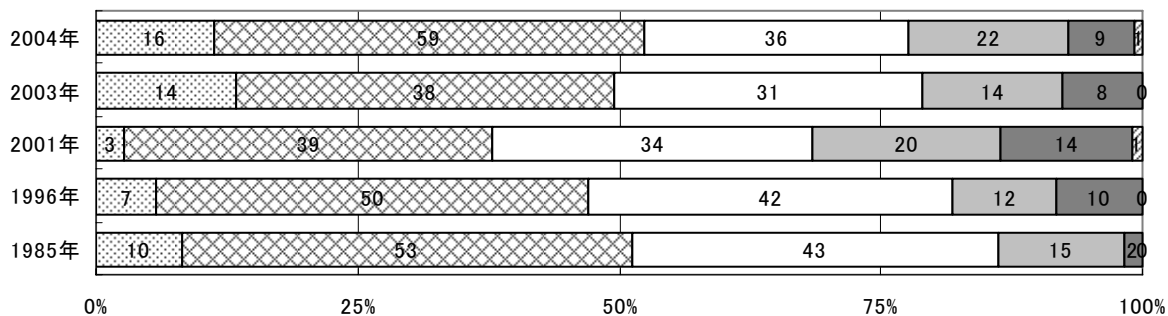
問 2 - ( 1 0 ) 生涯学習の支援に熱心な大学である。



問 2 - ( 1 1 ) スポーツ・文化活動が盛んである。



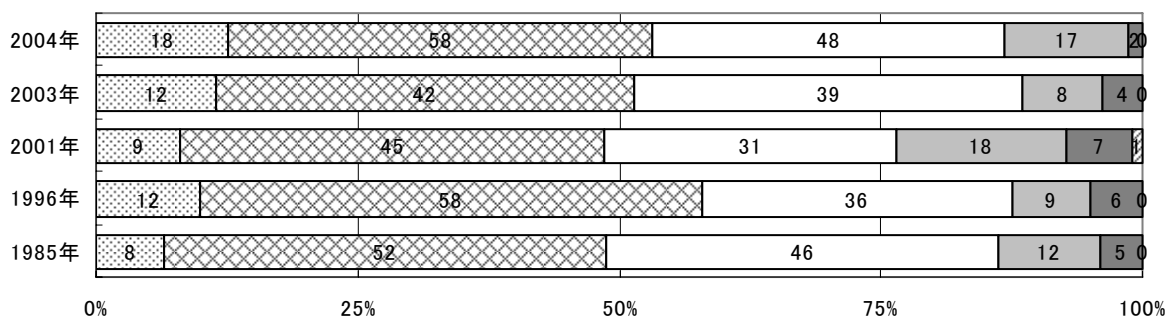
問 2 - ( 1 2 ) クラブ・サークルなどキャンパスコミュニティが豊かであった。



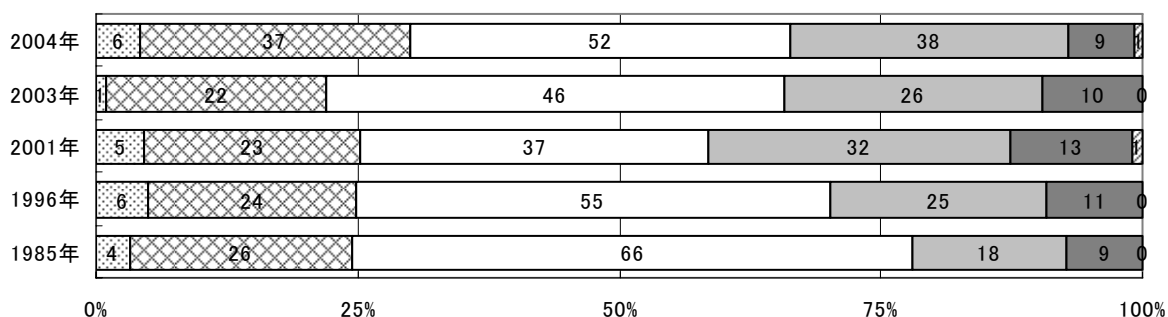
【共通設問】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

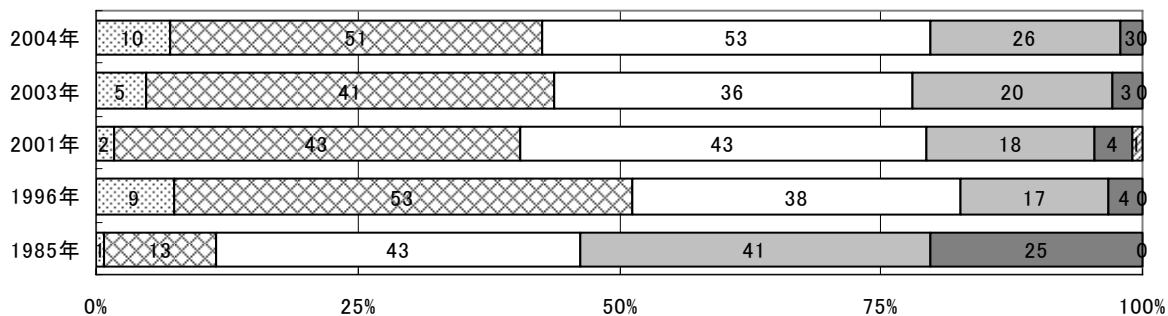
問 2 - ( 1 3 ) 学生と大学教員との交流が盛んである。



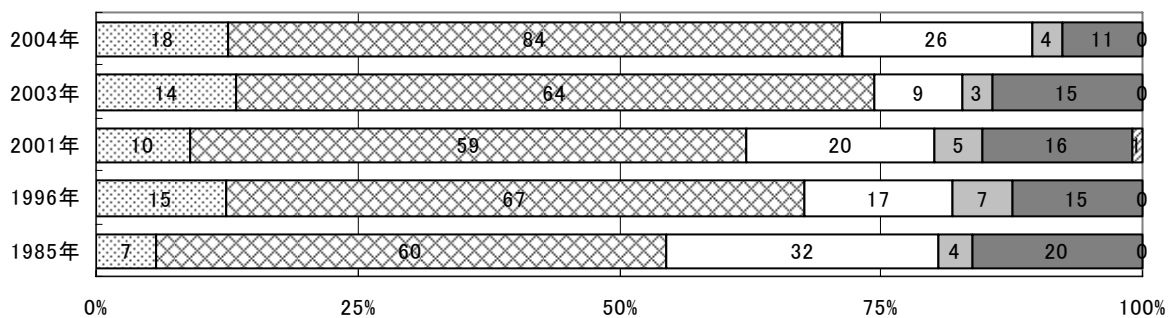
問 2 - ( 1 4 ) 卒業生と大学教員との交流が盛んである。



問 2 - ( 1 5 ) 施設・設備が充実している。



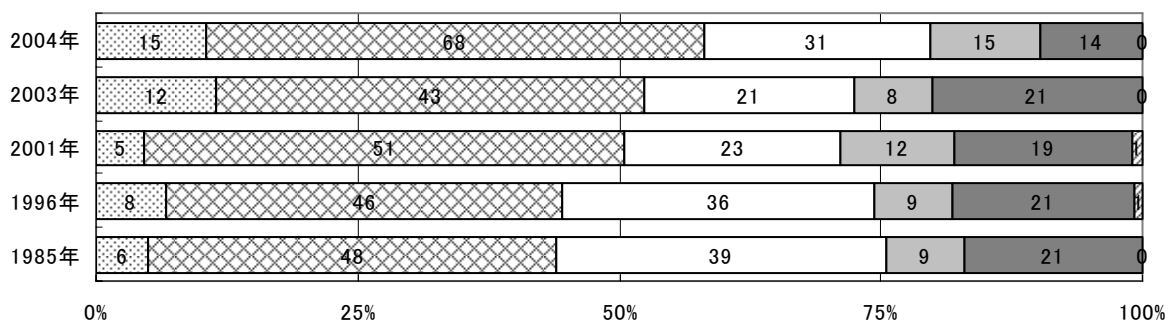
問 2 - ( 1 6 ) 世間の評判がよい。



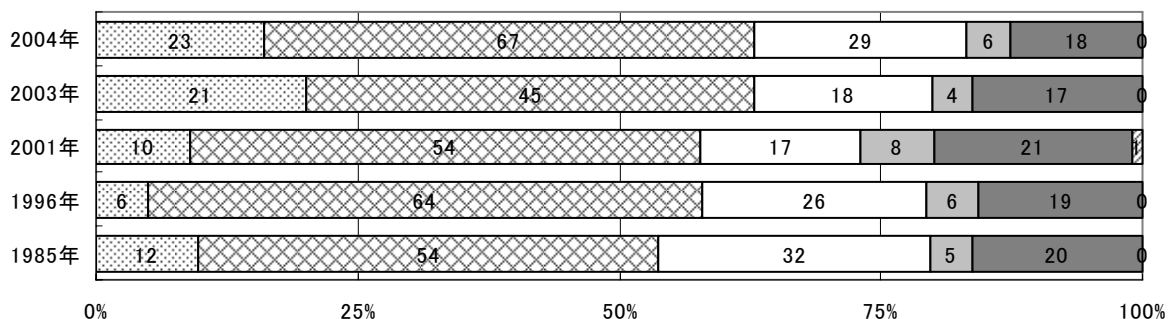
【共通設問】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

問 2 - (17) 将来性のある大学である。

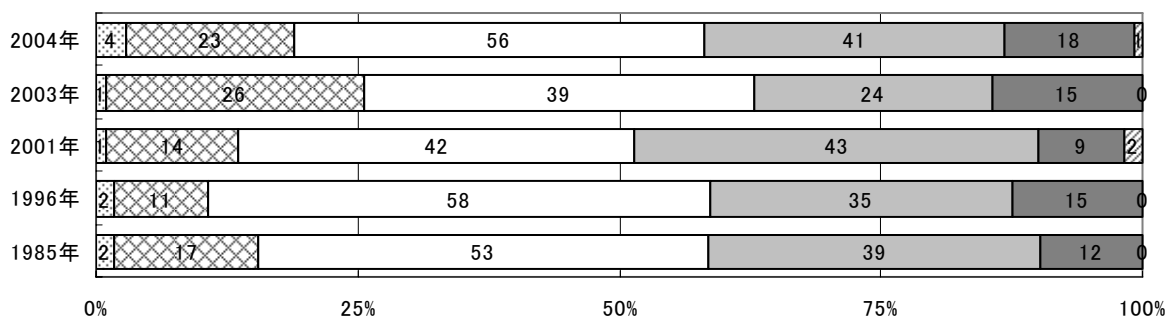


問 2 - (18) 大阪教育大学への進学を受験生に勧めたい。

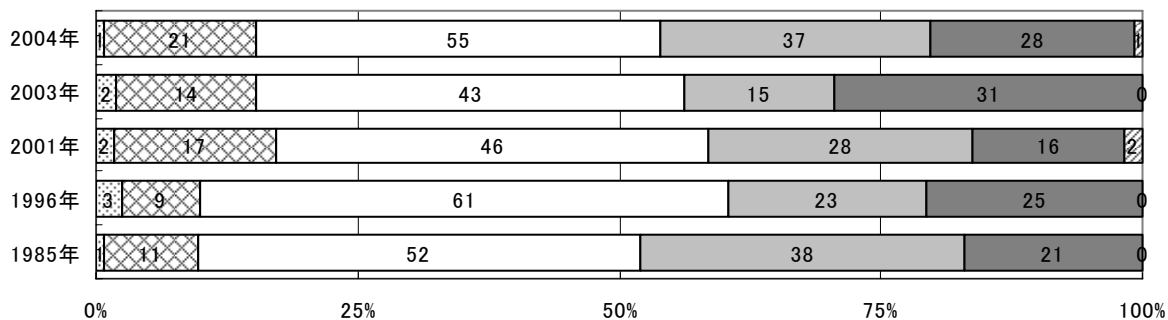


◆ 問 3 大阪教育大学の学生支援体制についてお聞きします。

問 3 - (1) 就職支援が充実していた。



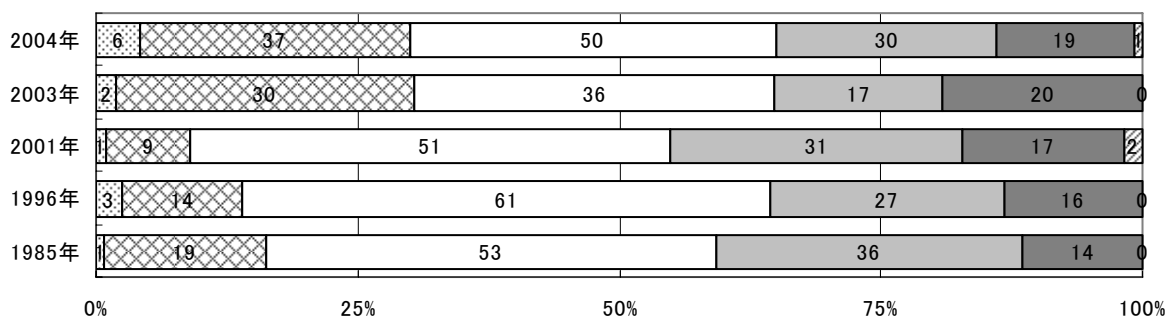
問 3 - (2) 進学支援が充実していた。



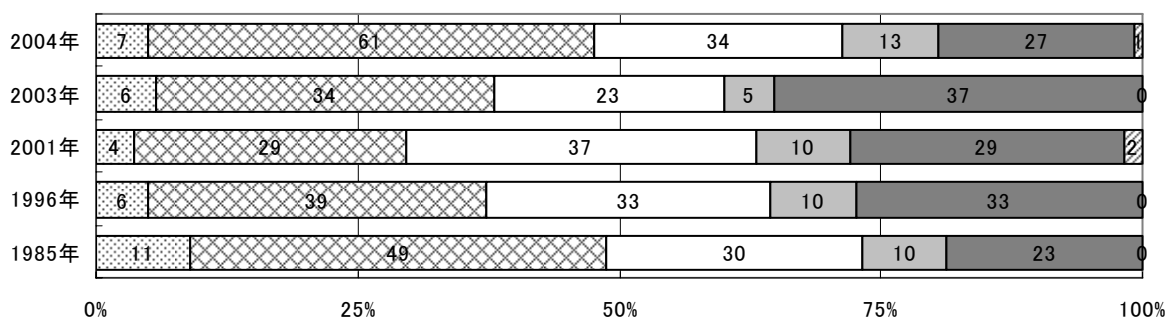
【共通設問】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

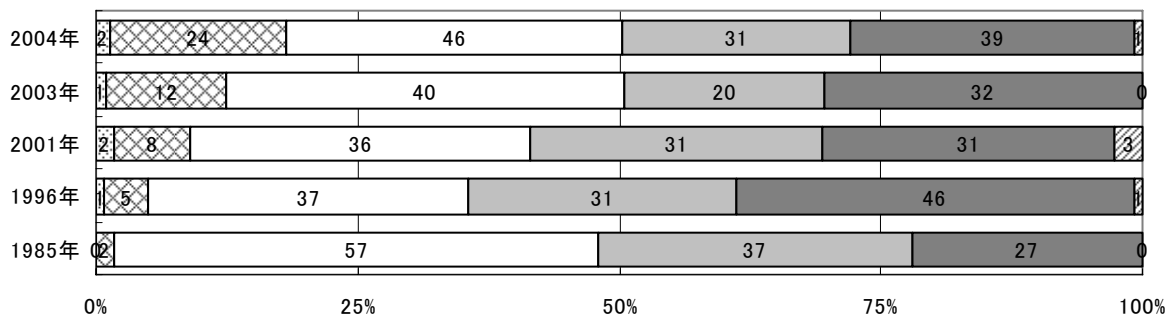
問3－(3) 学生への相談体制（学習，生活，進路，人権等）が充実していた。



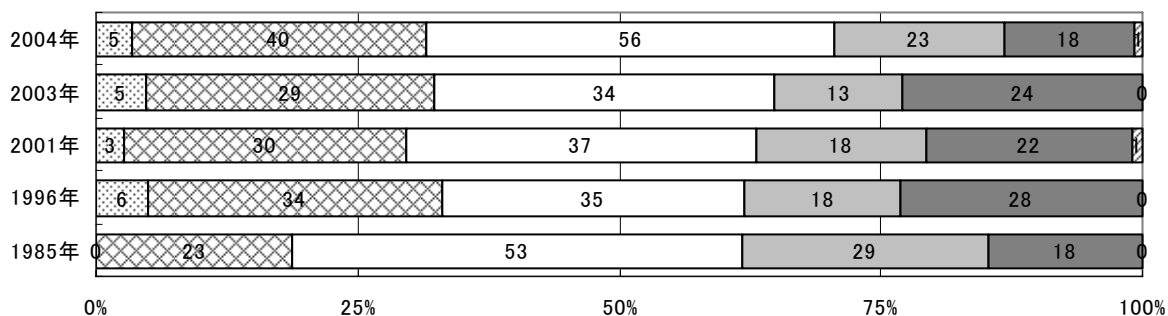
問3－(4) 授業料免除，奨学金等の経済的支援が充実していた。



問3－(5) 海外留学制度が充実していた。



問3－(6) 自主的な学習の支援体制が充実していた。

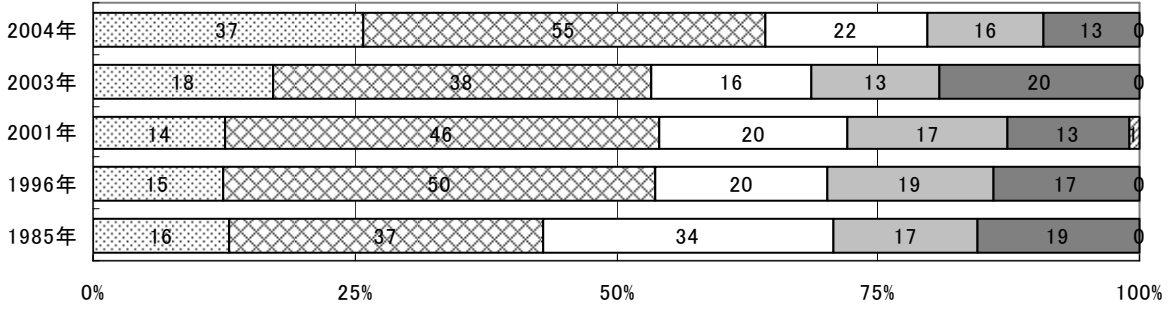


【共通設問】

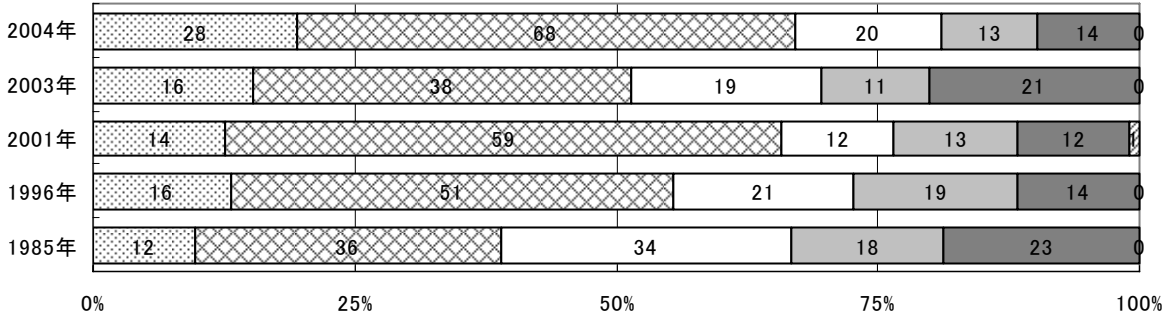
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

◆ 問4 リカレント教育・リフレッシュ教育のニーズについてお聞きします。

問4－(1) 学校教育の実践に重点を置いた大学院レベルの学習機会があれば活用する。



問4－(2) 職業実務の内容に重点を置いた大学院レベルの学習機会があれば活用する。

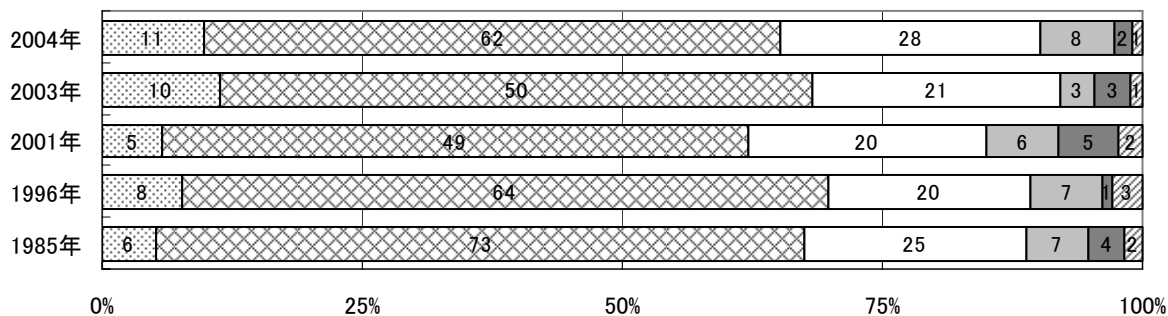


【学部】

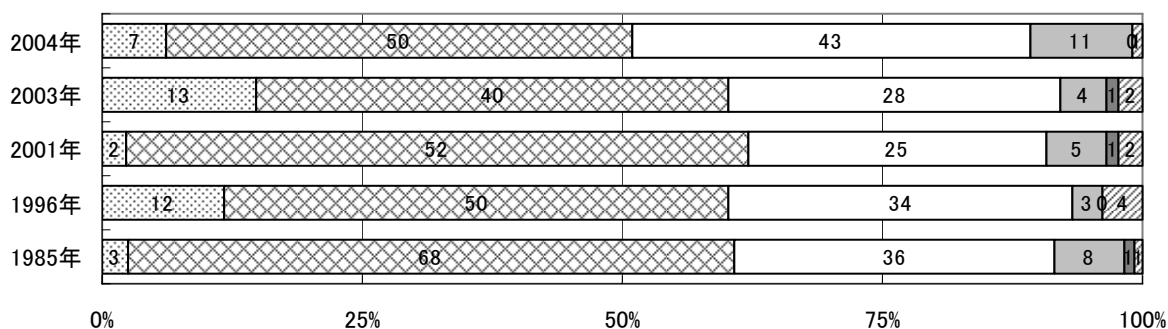
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

◆ 問5 学部教育の内容・方法等について、以下の設問にお答え下さい。

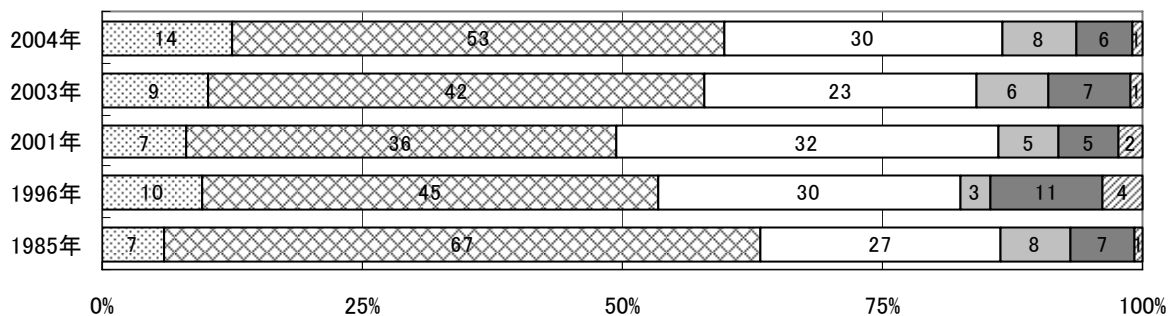
問5－(1) 大学教育は、教養教育（一般教育）、専門教育（教員養成課程の教職教育を含みます。）で構成されていますが、それらは、自身の学習目的に沿って有効に編成されていた。



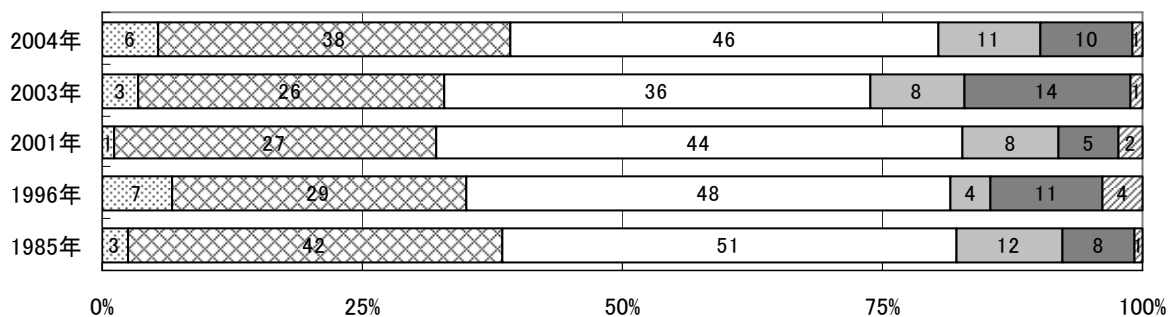
問5－(2) 幅広い教養が身についた。



問5－(3) 豊かな人間性が育まれた。



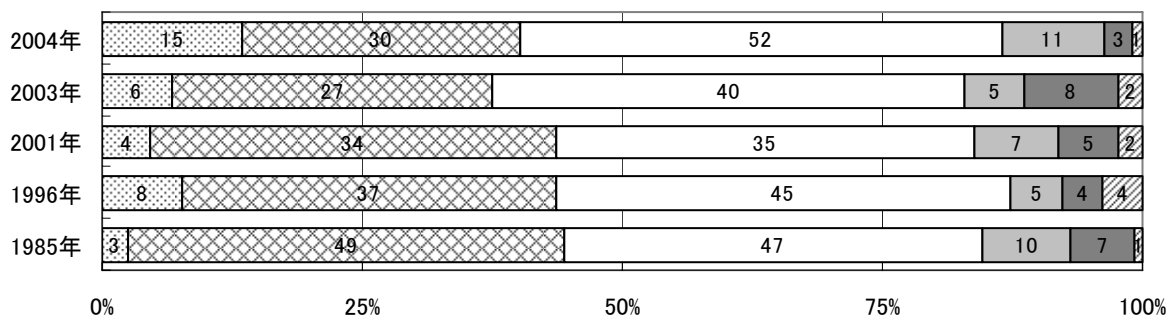
問5－(4) 高いモラルが身についた。



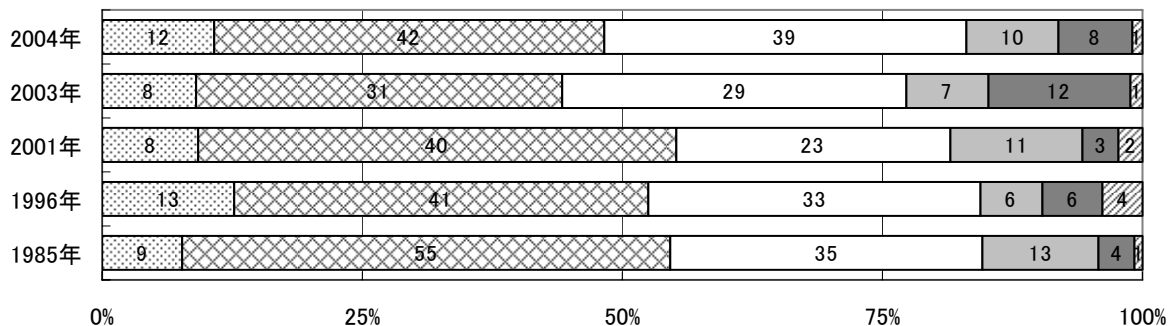
【学部】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

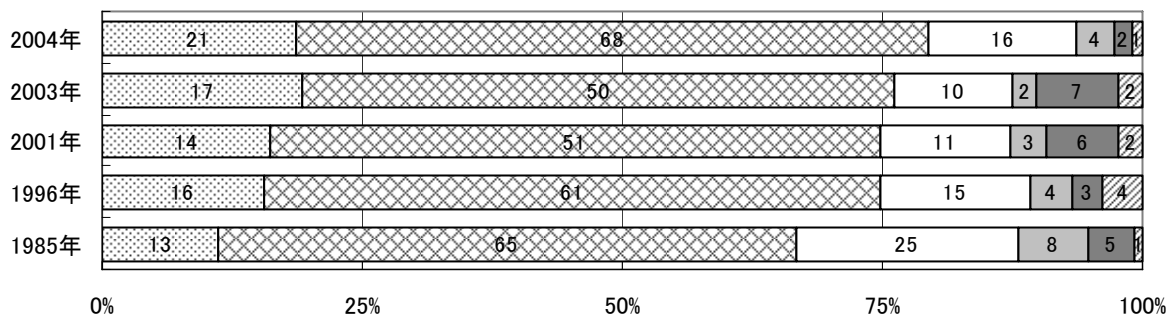
問5－（5）積極性・チャレンジ精神が身についた。



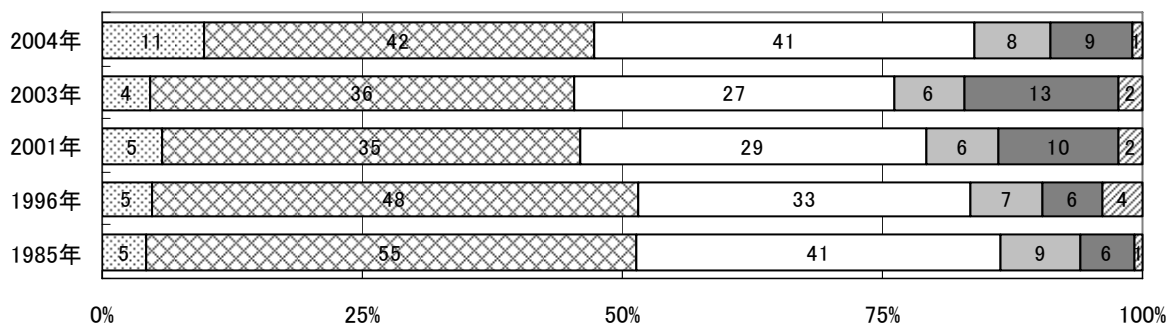
問5－（6）生涯にわたって学び続ける能力が身についた。



問5－（7）多様な価値観を受け入れることができるようになった。



問5－（8）合理的・論理的思考力が身についた

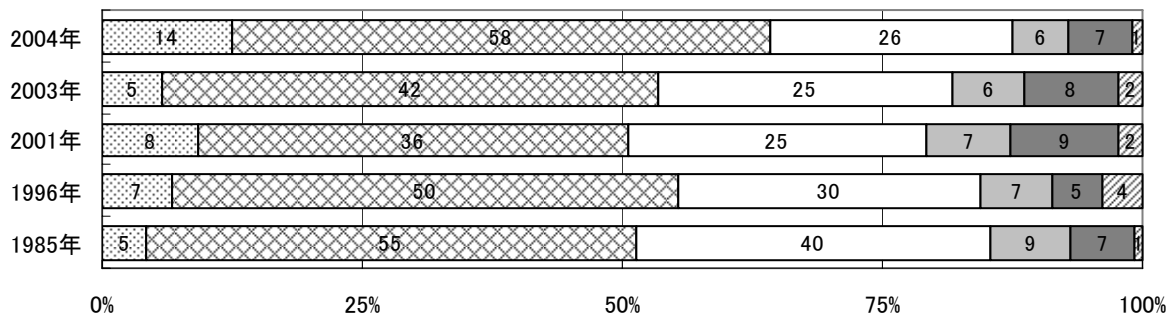




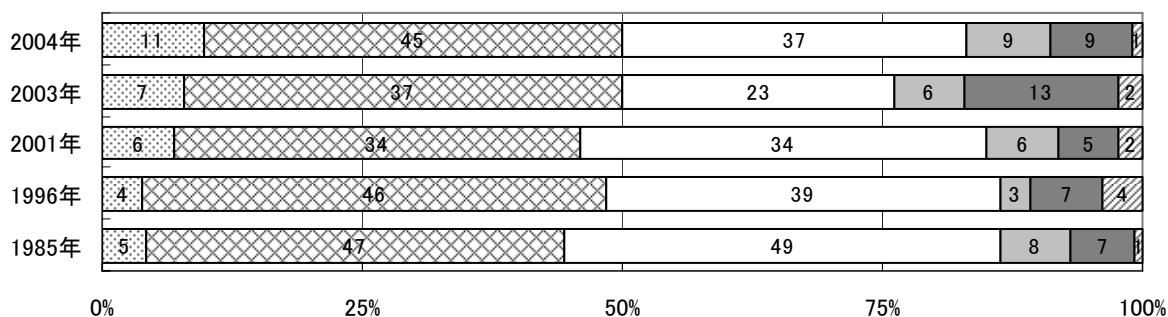
【学部】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

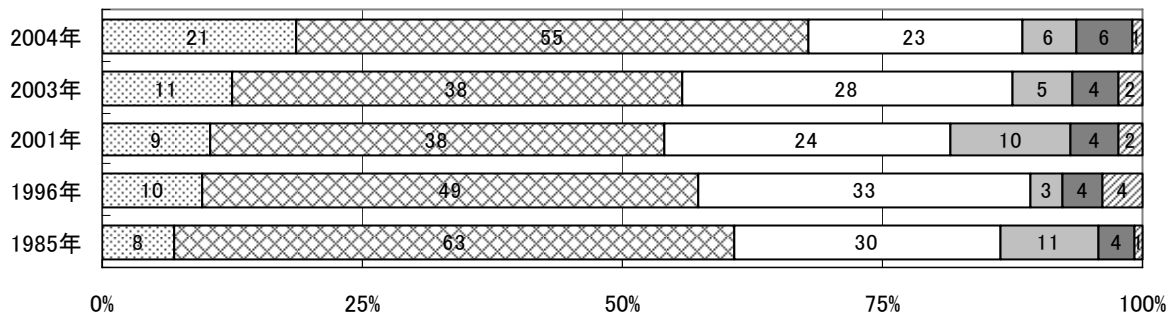
問5－(9) 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた。



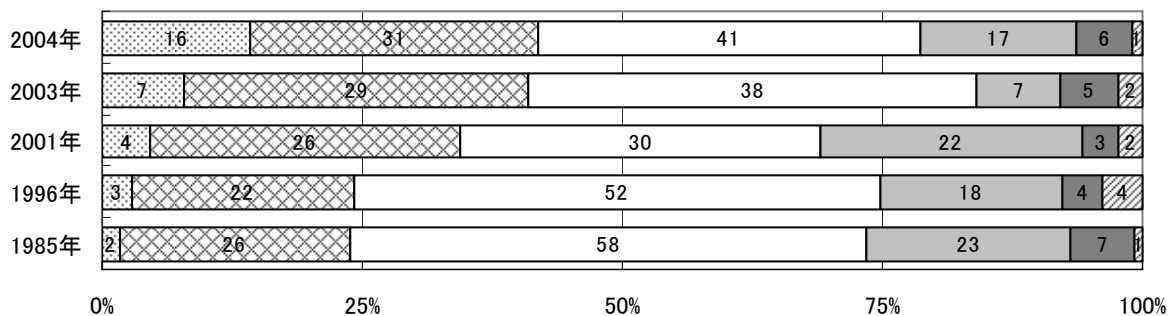
問5－(10) 問題を発見し、解決する能力が身についた。



問5－(11) コミュニケーション能力が身についた。



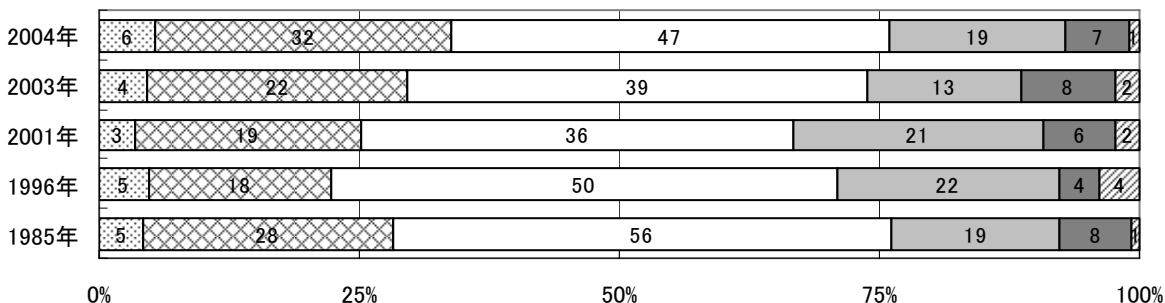
問5－(12) プレゼンテーション能力が身についた。



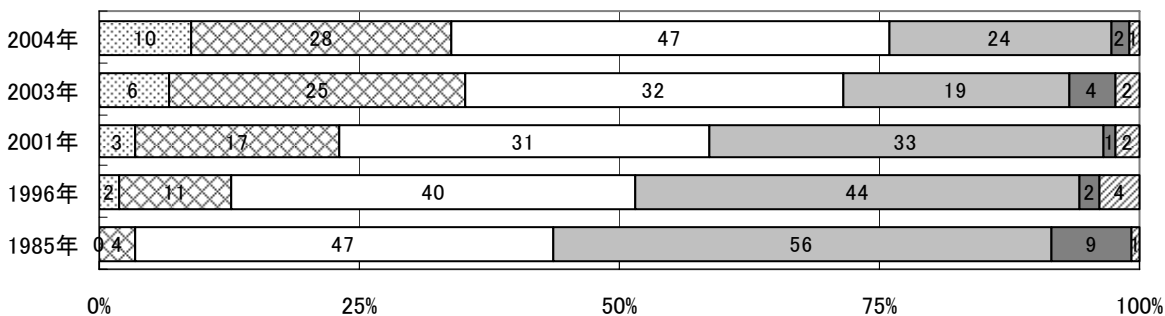
【学部】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

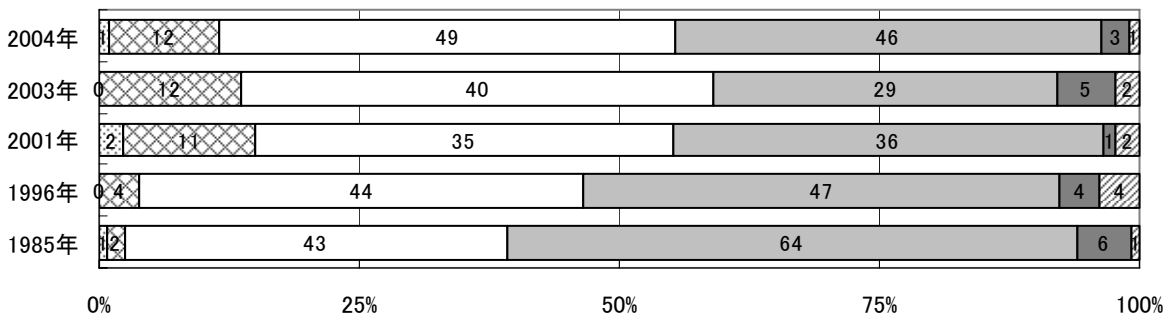
問5－（13）組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた。



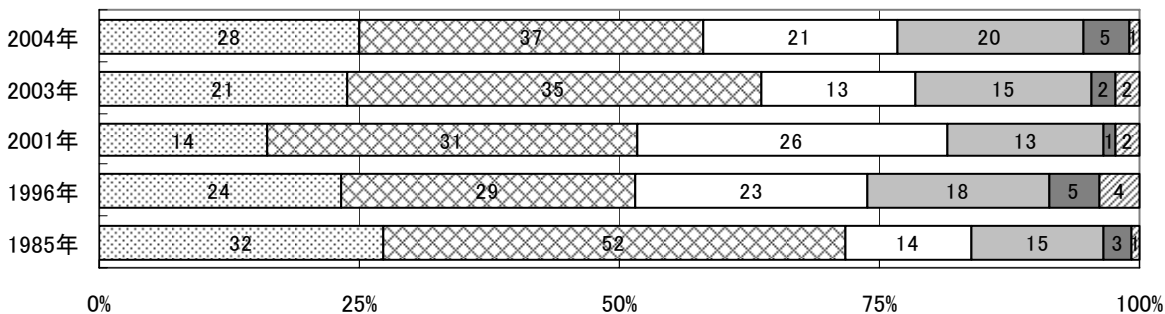
問5－（14）IT活用のための情報スキルが身についた。



問5－（15）語学力が身についた。



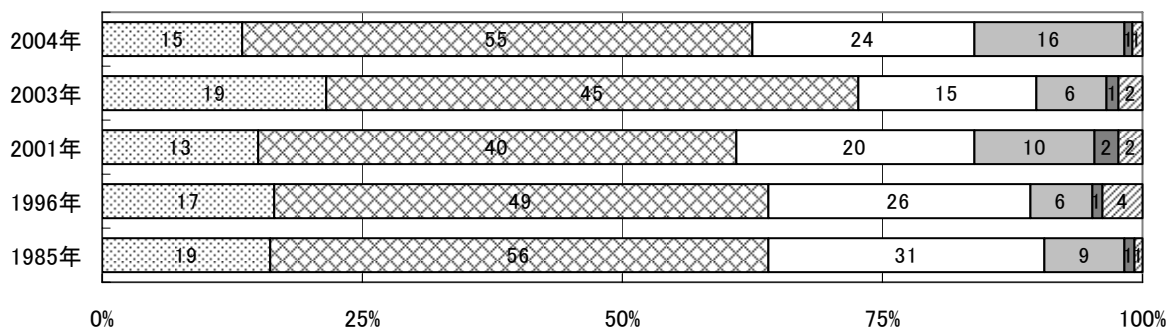
問5－（16）実践に役立つ資格が取得できた。



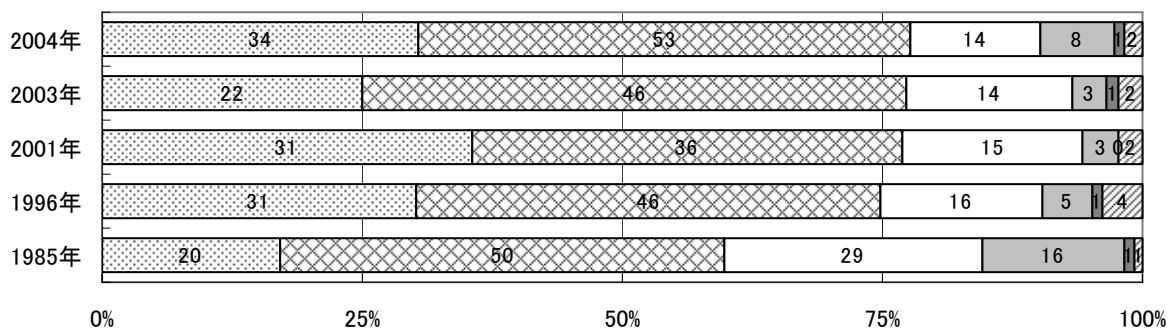
【学部】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

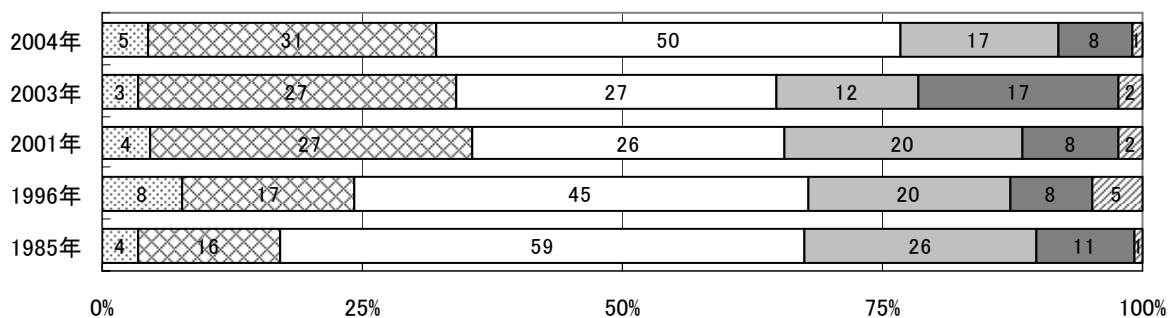
問5－（17）専門知識・技術（教職能力を含む。）が身についた。



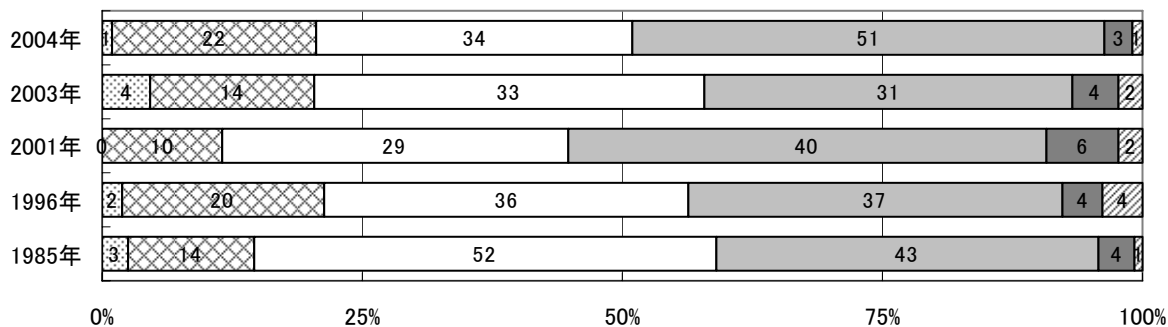
問5－（18）少人数による指導を受けることができた。



問5－（19）参加型・プロジェクト型の実践教育が充実していた。



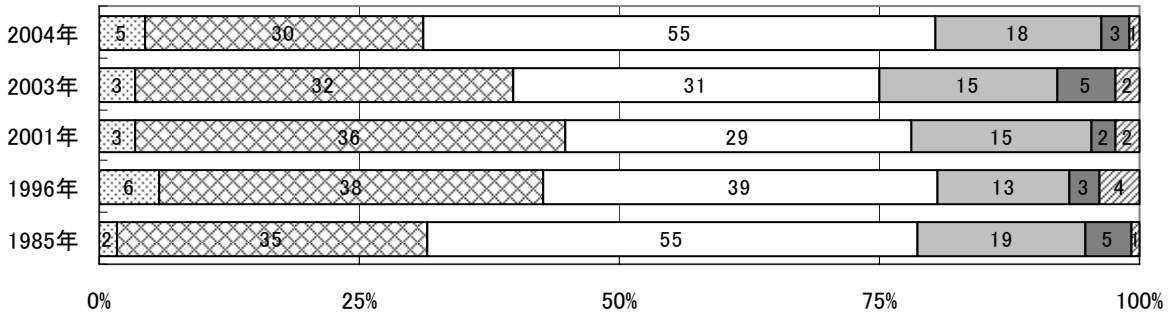
問5－（20）職業体験や社会体験の機会が多かった。



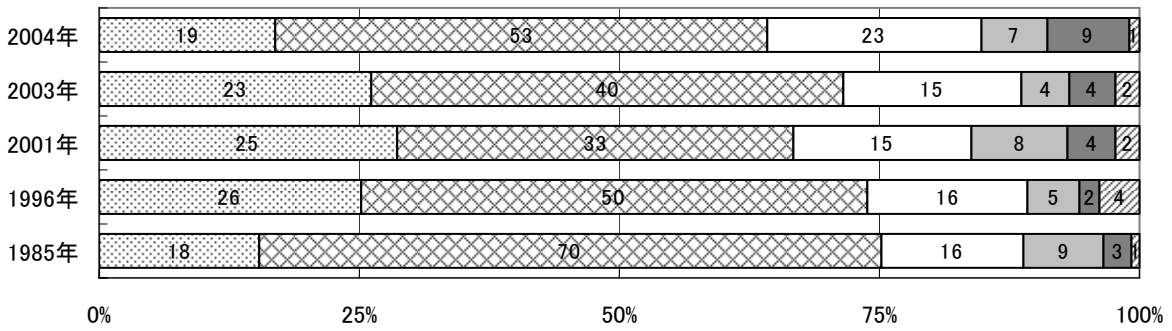
【学部】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

問5－(21) 学習意欲のわく授業が多かった。



問5－(22) 大学で得た知識や経験は、その後の人生に役立っている。

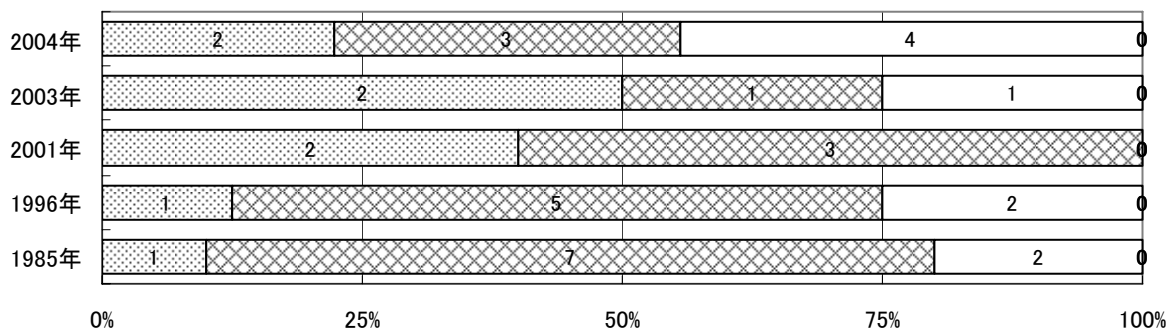


【第二部】

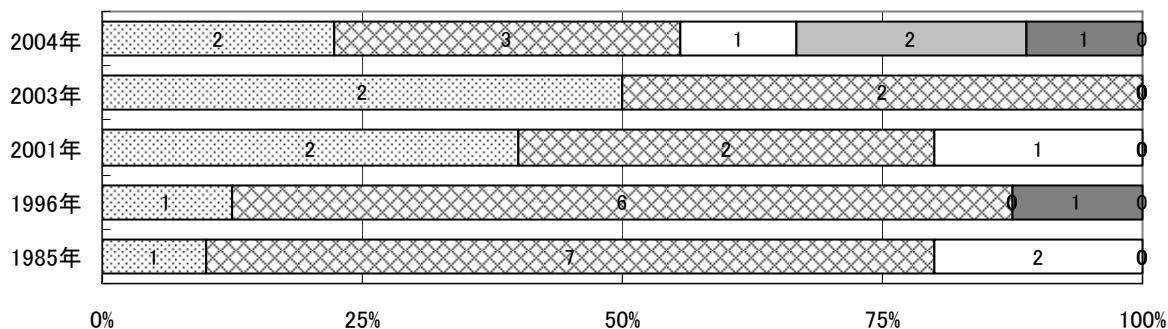
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

◆ 問6 第二部についてお聞きします

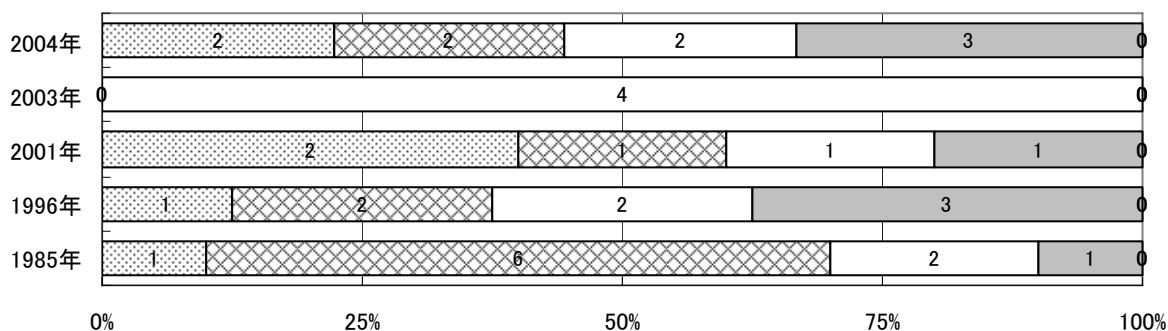
問6－(1) 開講時間（17：45（20年前は17：30）～21：00）は適切であった。



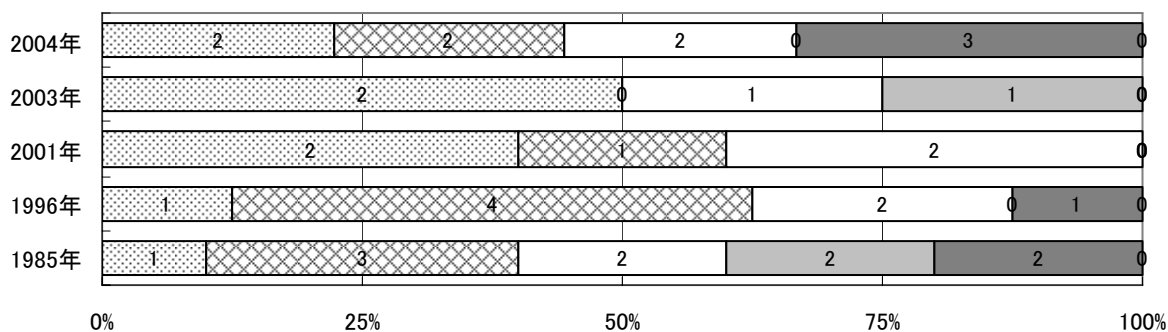
問6－(2) 1コマ90分（20年前は100分）の2講時は適切であった。



問6－(3) 土曜日・日曜日も授業開講日として活用すべきである。



問6－(4) 教員は、有職者に配慮した指導を行っていた。

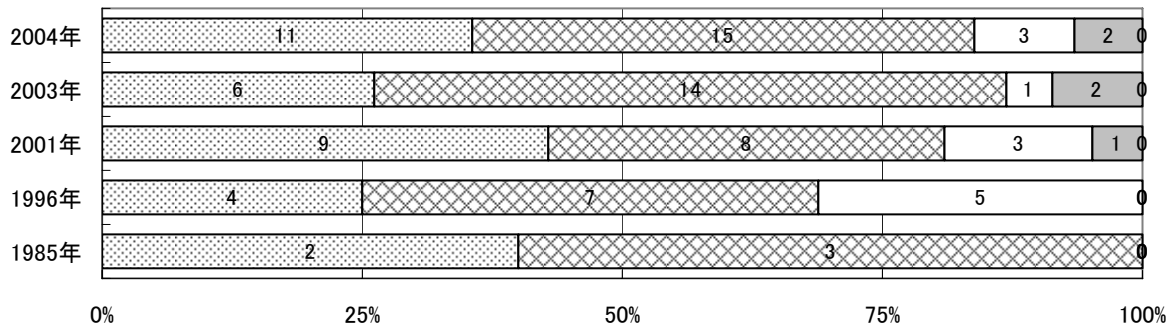


【大学院】

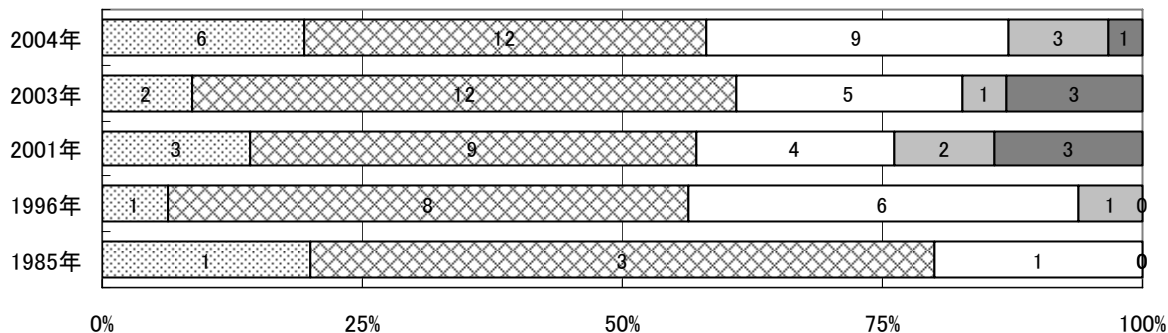
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

◆ 問9 大学院における教育研究活動等について、以下の設問にお答えください。

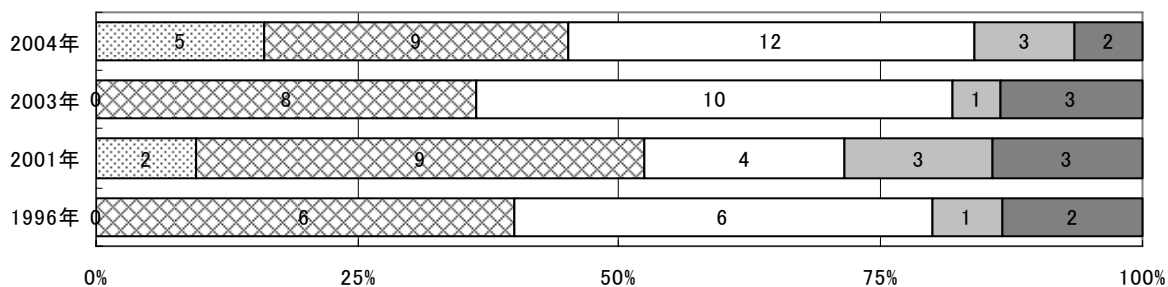
問9- (1) 大学院では授業、研究指導、論文指導等による教育研究活動が行われていますが、それらは、自身の学習や研究の目的に沿って有効に機能していた。



問9- (2) 教育系の各専攻のカリキュラムは、教育科学、教科教育、教科内容について体系的に編成されていた。

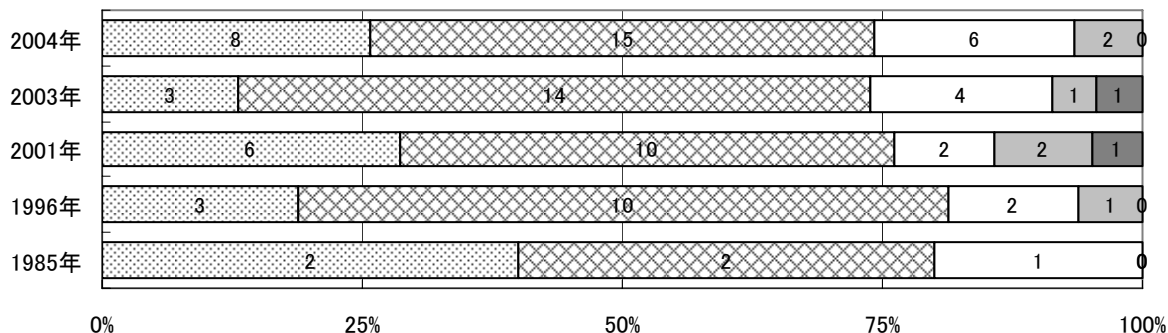


問9- (3) 教養系の各専攻のカリキュラムは、分野を融合した総合性の高い編成であった。



備考：1993年に社会人を対象とする夜間大学院（健康科学専攻）、1996年に第二部を基礎とする夜間大学院（実践学校教育専攻）を設置した。よって、1985年の修了生は存在しない。

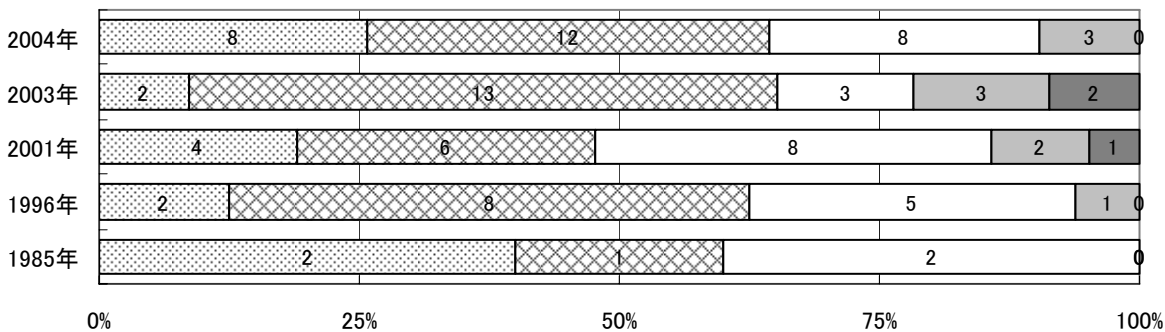
問9- (4) 授業は、高度な内容を有していた。



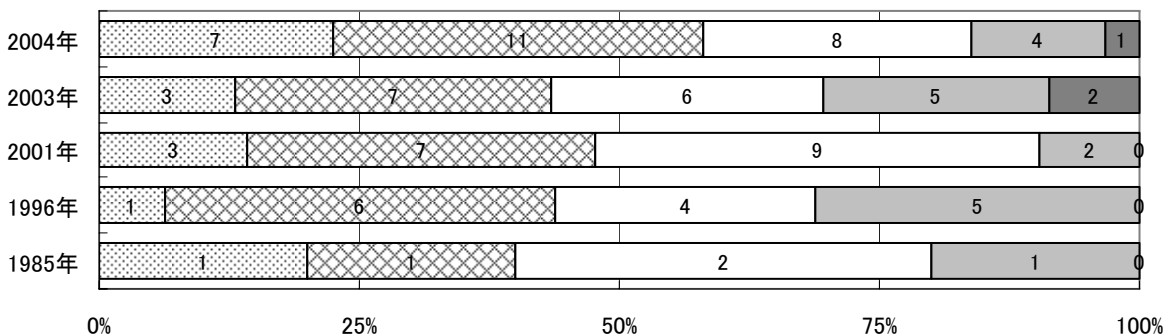
【大学院】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

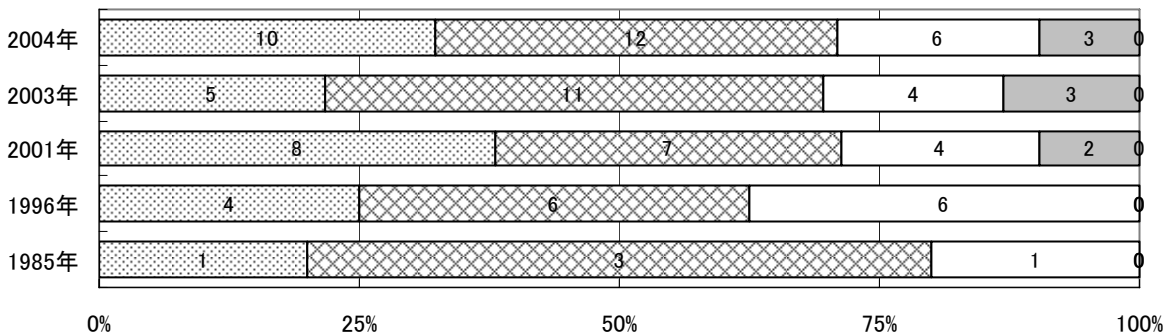
問9－（5）授業や研究指導において、実験・学習・演習・調査など多彩な方法を工夫していた。



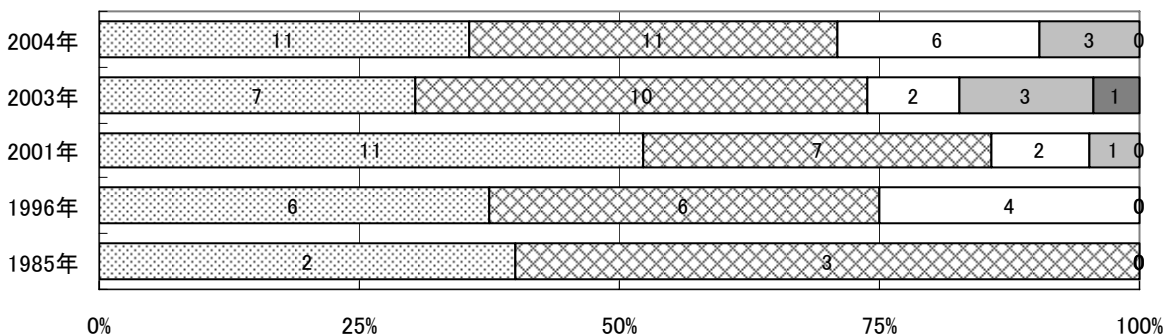
問9－（6）授業や研究指導において、職業現場をフィールドとするケーススタディやグループワークを積極的に導入していた。



問9－（7）適切な研究指導体制が確保されていた。



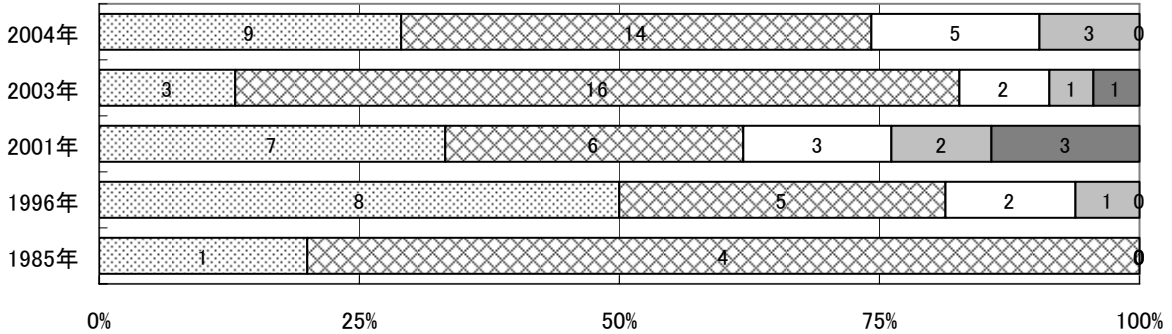
問9－（8）修士論文作成のための適切な指導体制が確保されていた。



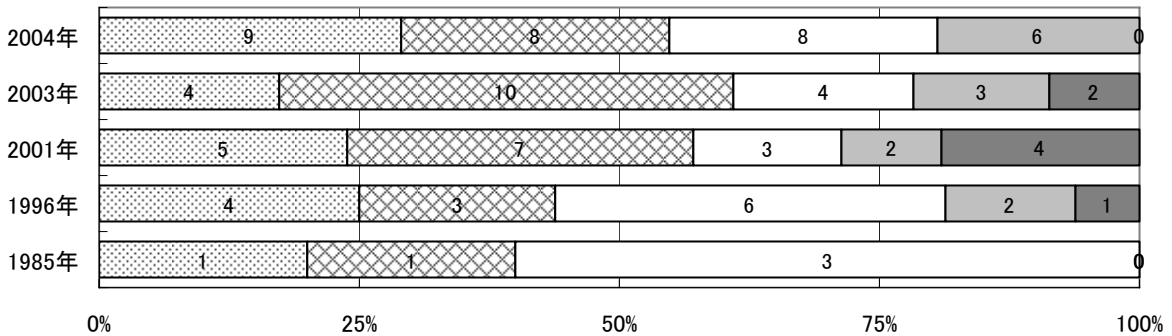
【大学院】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

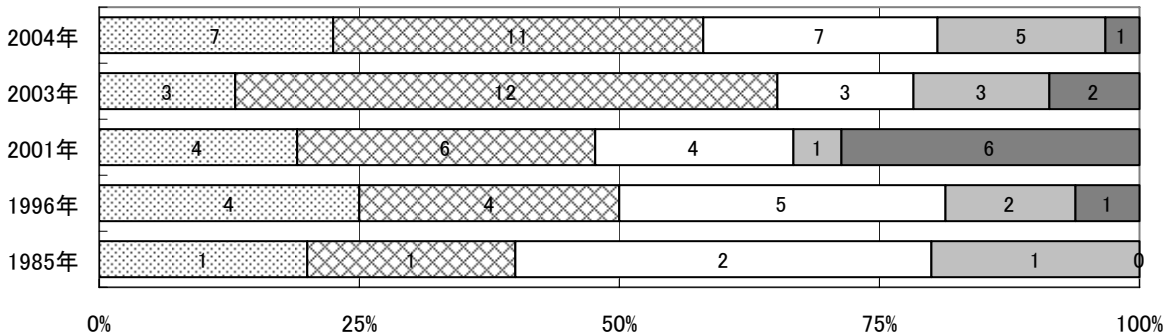
問9－(9) 学部教育の基礎の上に、専門分野の研究能力又は技術・技能が身についた。



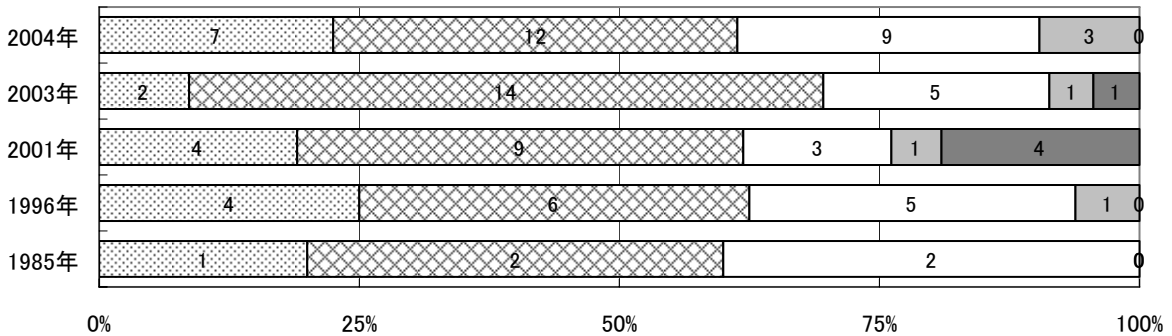
問9－(10) 学部教育の基礎の上に、教育実践に関わる研究能力が身についた。



問9－(11) 学部教育の基礎の上に、有為な教育実践者としての能力が身についた。



問9－(12) 学部教育の基礎の上に、職業に関わる課題解決能力が身についた。

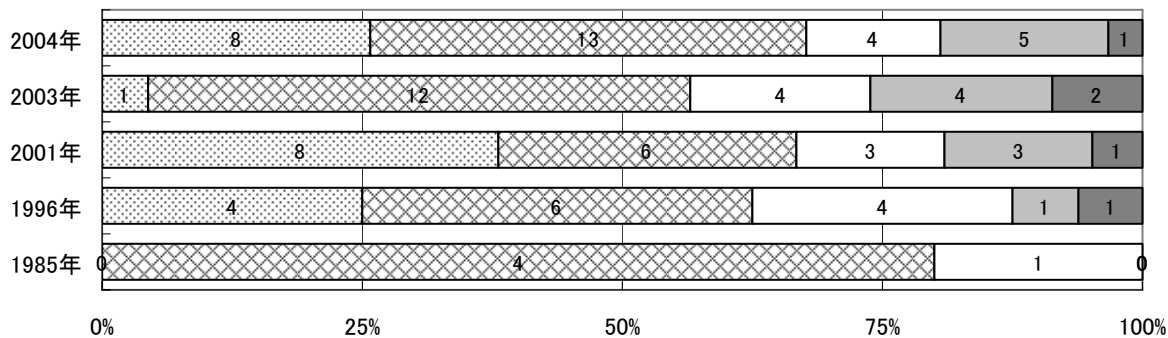




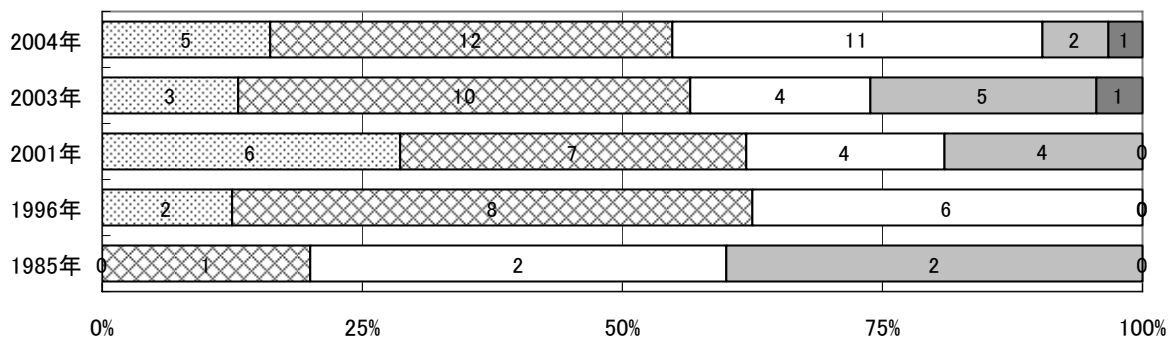
【大学院】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

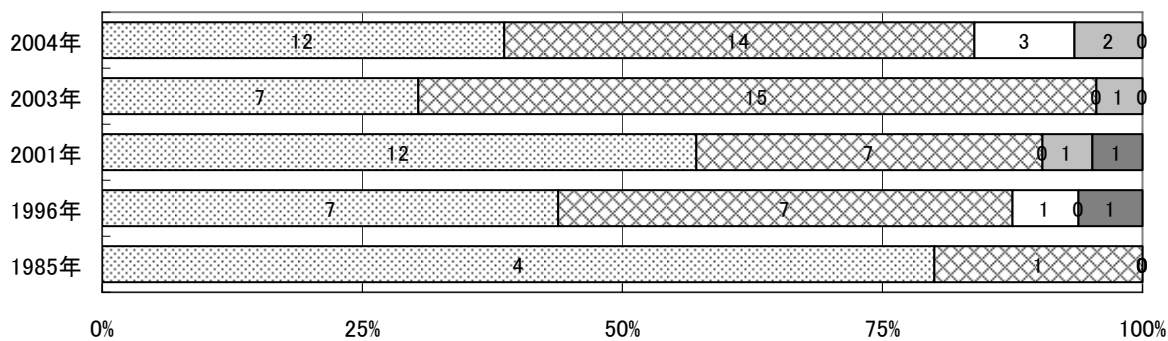
問9－(13) 実践に役立つ大学院レベルの資格が取得できた。



問9－(14) 自身の研究活動を進めるための施設・設備の環境は適当であった。



問9－(15) 大学院で得た知識や経験は、その後の人生に役立っている。



【大学院】

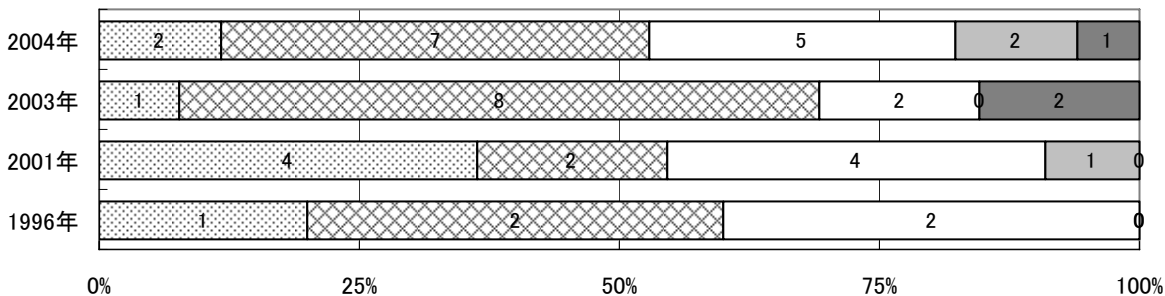
大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

【現職教員や社会人】として大学院で学ばれた方にお聞きします。

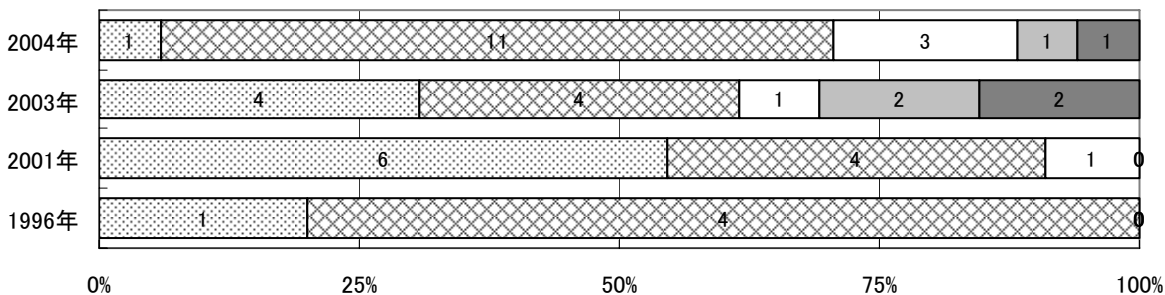
◆ 問 10 大学院におけるリカレント・リフレッシュ教育についてお聞きします。

備考：1993年に社会人を対象とする夜間大学院（健康科学専攻）、1996年に第二部を基礎とする夜間大学院（実践学校教育専攻）を設置した。よって、1985年の修了生は存在しない。

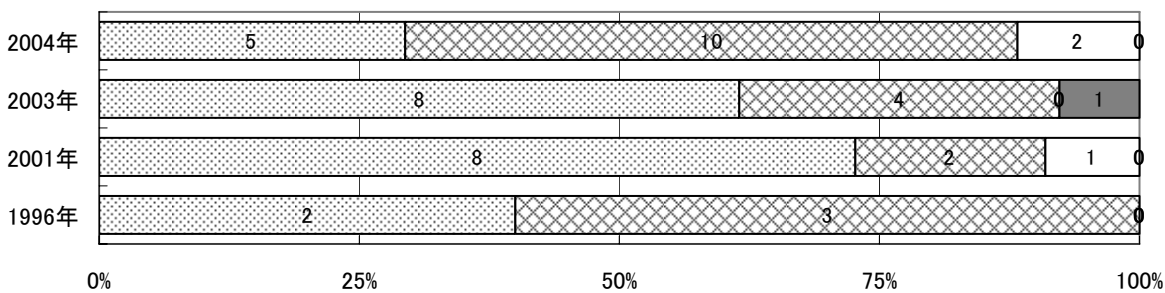
問 10-（1）実践に役立つ教育及び研究指導が行われていた。



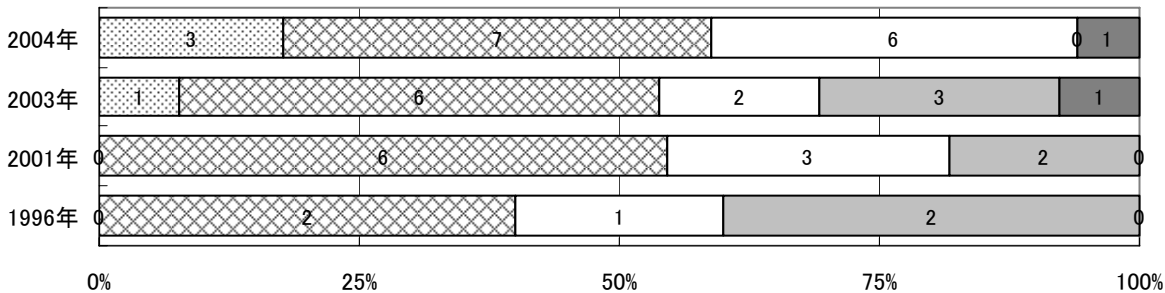
問 10-（2）教員は、有職者に配慮した指導を行っていた。



問 10-（3）現職教員や社会人にとって、修士論文の作成は有意義である。



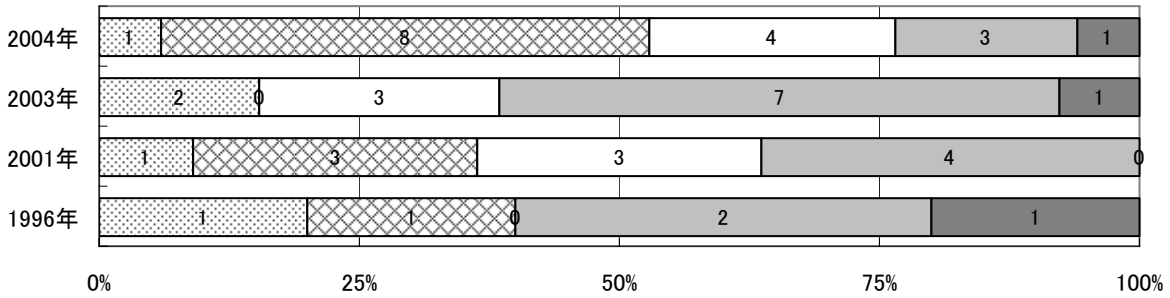
問 10-（4）現職教員や社会人にとって、修士論文の作成は負担が大きい。



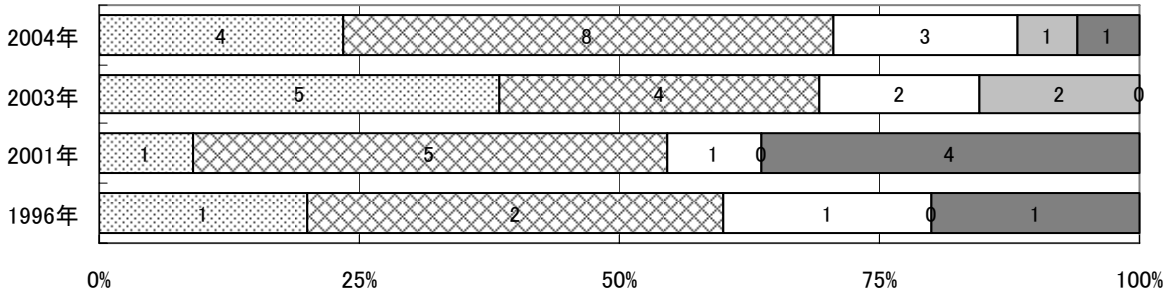
【大学院】

大変そう思う
  そう思う
  あまり思わない
  思わない
  わからない
  不明

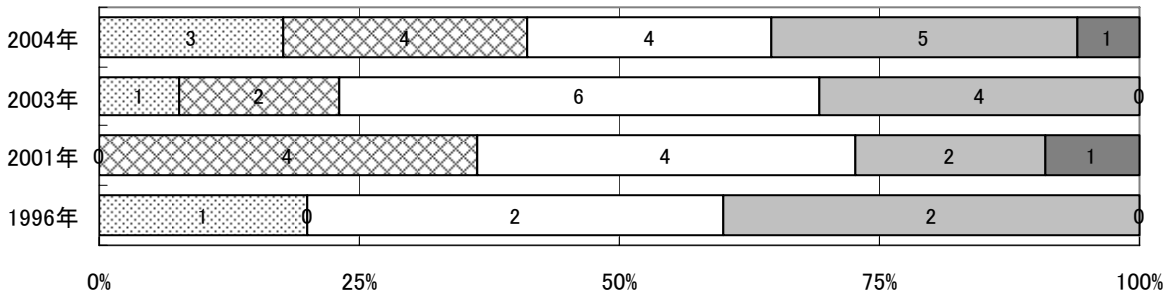
問10-(5) 現職教員や社会人には、例えば理論と職業実践の融合などに関するレポートを修士論文に換えるのが適当である。



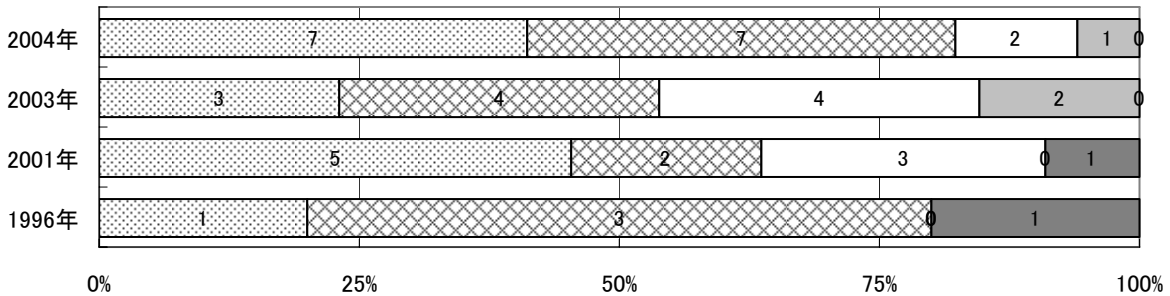
問10-(6) 修士の学位に相当する学習・研究成果を得るには、授業料が変わらない長期履修制度（正規の修学年数が2年を超えるもの）が必要である。



問10-(7) 修士課程に短期履修制度（正規の修学年数が1年程度のもの）を導入することは有効である。



問10-(8) 土曜日、日曜日、長期休業期間中も授業や研究指導の時間帯として設定すべき。



【大学院】

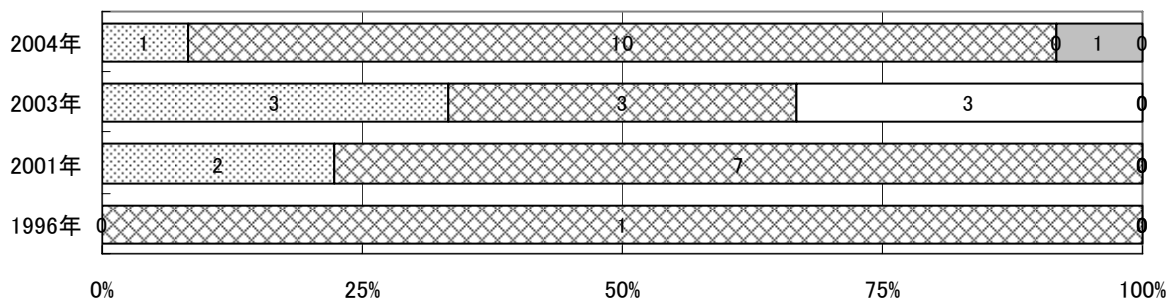
大変そう思う  
  そう思う  
  あまり思わない  
  思わない  
  わからない  
  不明

【夜間大学院（実践学校教育専攻又は健康科学専攻）】を修了された方にお聞きします。

◆ 問 1 1 夜間大学院の開講形態についてお聞きします。

備考：1993年に社会人を対象とする夜間大学院（健康科学専攻）、1996年に第二部を基礎とする夜間大学院（実践学校教育専攻）を設置した。よって、1985年の修了生は存在しない。

問 1 1 - (1) 開講時間帯は適切であった。



【専攻科】

・専攻科についてはデータ数が少ないためグラフ化していない。

①大変そう思う ②そう思う ③あまり思わない ④思わない ⑤わからない ⑥不明

◆ 問 15 専攻科における教育研究活動について、以下の設問にお答えください。

問 15 - (1) 専攻科では授業、研究指導、論文指導等による教育研究活動が行われていますが、それらは、自身の学習や研究の目的に沿って有効に機能していた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	0	1	1	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	6	0	1	1	1	11

問 15 - (2) 専攻科のカリキュラムは、理論と実践について体系的に編成されていた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	0	2	1	1	0	4
2003年	0	0	1	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	0	1	0	0	0	1
合計	2	2	4	1	1	1	11

問 15 - (3) 授業は、具体的な内容を有していた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	2	0	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	6	2	0	0	1	11

問 15 - (4) 授業や研究指導において、実習・演習・調査など多彩な方法を工夫していた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	3	0	1	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	7	0	1	0	1	11

問 15 - (5) 授業や研究指導において、職業現場をフィールドとするケーススタディなどを積極的に導入していた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	2	0	0	0	4
2003年	0	0	1	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	1	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	4	4	0	0	1	11

【専攻科】

・専攻科についてはデータ数が少ないためグラフ化していない。

①大変そう思う ②そう思う ③あまり思わない ④思わない ⑤わからない ⑥不明

問15－(6) 適切な研究指導体制が確保されていた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	1	1	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	0	0	1	0	2
1985年	0	0	1	0	0	0	1
	2	4	2	1	1	1	11

問15－(7) 論文作成のための適切な指導体制が確保されていた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	0	1	1	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	0	0	1	0	0	1
	2	5	0	2	1	1	11

問15－(8) 学部教育の基礎の上に、専門分野の研究能力又は技術・技能が身についた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	4	0	0	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
	2	8	0	0	0	1	11

問15－(9) 学部教育の基礎の上に、教育実践に関わる研究能力が身についた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	2	0	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	0	0	1	0	0	1
	2	5	2	1	0	1	11

問15－(10) 学部教育の基礎の上に、有為な教育実践者としての能力が身についた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	1	2	0	1	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	0	0	1	0	2
1985年	0	0	0	0	1	0	1
	2	3	2	0	3	1	11

【専攻科】

・専攻科についてはデータ数が少ないためグラフ化していない。

①：大変そう思う ②：そう思う ③：あまり思わない ④：思わない ⑤：わからない

問15－(11) 学部教育の基礎の上に、職業に関わる課題解決能力が身についた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	1	3	0	0	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	0	0	1	0	2
1985年	0	0	0	0	1	0	1
	2	3	3	0	2	1	11

問15－(12) 自身の研究活動を進めるための施設・設備の環境は適当であった。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	2	0	1	1	0	4
2003年	0	1	0	0	0	1	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	1	0	0	0	2
1985年	0	0	1	0	0	0	1
	2	4	2	1	1	1	11

問15－(13) 専攻科で得た知識や経験は、その後の人生に役立っている。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	3	1	0	0	0	4
2003年	1	0	0	0	0	1	2
2001年	2	0	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	1	0	0	0	0	1
	4	5	1	0	0	1	11

【現職教員や社会人】として専攻科で学ばれた方にお聞きします。

◆ 問16 専攻科におけるリカレント・リフレッシュ教育についてお聞きします。

問16－(1) 実践に役立つ教育及び研究指導が行われていた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	1	1	0	0	2	4
2003年	0	2	0	0	0	0	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	0	0	0	0	1	1
	2	5	1	0	0	3	11

問16－(2) 教員は、有職者に配慮した指導を行っていた。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	3	0	0	0	1	4
2003年	0	2	0	0	0	0	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	0	0	0	1	0	2
1985年	0	0	0	0	0	1	1
	2	6	0	0	1	2	11

【専攻科】

・専攻科についてはデータ数が少ないためグラフ化していない。

①：大変そう思う ②：そう思う ③：あまり思わない ④：思わない ⑤：わからない

問16－(3) 現職教員や社会人にとって、論文の作成は有意義である。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	1	2	0	0	1	4
2003年	0	1	1	0	0	0	2
2001年	1	1	0	0	0	0	2
1996年	1	1	0	0	0	0	2
1985年	0	0	0	0	0	1	1
	2	4	3	0	0	2	11

問16－(4) 現職教員や社会人にとって、論文の作成は負担が大きい。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	1	1	1	0	0	1	4
2003年	0	0	2	0	0	0	2
2001年	0	0	2	0	0	0	2
1996年	1	0	1	0	0	0	2
1985年	0	0	0	0	0	1	1
	2	1	6	0	0	2	11

問16－(5) 土曜日、日曜日、長期休業期間中も授業や研究指導の時間帯として設定すべき。

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
2004年	0	0	1	1	0	2	4
2003年	0	0	2	0	0	0	2
2001年	0	1	0	0	1	0	2
1996年	1	0	1	0	0	0	2
1985年	0	0	0	0	0	1	1
	1	1	4	1	1	3	11